

# 「技術のまち活性化シンポジウム」

テーマ：「あすのものづくりに若者が何を求めているか」

## 報 告



競輪補助事業

玉野職人塾Ⅲ 実行委員会

(財) 玉野産業振興公社



P

と き \_\_\_\_\_

平成20年 8月19日 (火曜日)

ところ \_\_\_\_\_

玉野市築港1丁目 産業振興ビル 3F

R

13:30 開会挨拶 \_\_\_\_\_

職人塾実行委員長 三宅 照正氏

O

13:35 職人塾経過報告 \_\_\_\_\_

職人塾事務局長 船守 利幸氏

13:45 基調講 演題：『中国の船用界事情』

上海中船三井造船柴油机有限公司 董事・総経理

G

水原 修平氏

15:20 パネルディスカッション

テーマ 『あすのものづくりに若者が

何を求めているか』

R

岡山商科大学 教授	岡本 輝代志 氏
玉野市長	黒田 晋 氏
中国運輸局岡山運輸支局 次長	勢井 利博 氏
玉野公共職業安定所 所長	原 直美 氏
三井造船(株)玉野事業所総務部長	仲田 正幸 氏
玉野商業高等学校 校長	内田 太 氏
職人塾 実行委員長	三宅 照正 氏

A

17:20 閉会挨拶 \_\_\_\_\_

職人塾 副委員長 宮原 一也 氏

M

・アンケート結果報告 \_\_\_\_\_



<受付風景>



<会場#1>



<会場#2>



## 開会挨拶

○司会：藤原 記子

お待たせいたしました。

只今から、「技術のまち活性化シンポジウム」、「明日のものづくりに若者が何を求めているか」を開催いたします。

皆様方には、暑い中、また、お忙しい中おいでいただきまして、本当にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めます“玉野市商工観光課の藤原”です。

どうぞよろしくお願ひします。

それでは、本日のシンポジウムの日程について ご説明いたします。

最初に、「開会の挨拶」、昨年度及び本年度の職人塾につきまして、その「経過報告」をさせていただき、その後、「基調講演」をお願いし、休憩を挟んで最後に「パネルディスカッション」を行う予定としておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、開会に当たりまして、「職人塾実行委員会三宅委員長」から皆様にご挨拶申し上げます。三宅委員長、よろしくお願ひいたします。



○三宅照正 職人塾 実行委員長

失礼します。只今、ご紹介にあずかりました三宅でございます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



本日は、「技術のまち活性化シンポジウム」を開催しましたところ、お忙しい中、多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

職人塾は、団塊の世代の物づくりで培われました高度な技術、技能が失われている現状に対処するために、若者に物づくりの楽しさや物づくりに興味を持ってもらい、技術、技能の伝承を図っていく目的で、平成18年に設立されました。

職人塾は 3年目のスタートとして、今回のシンポジウムは「明日のものづくりに若者が何を求めているか」について、皆さんと考えていきたいと思っております。

若者の物づくりに対する更なる関心は、製造業に対するイメージの変化をもたらし、地元企業、ひいては玉野市、地場産業の活性化に大きく寄与していくものと確信しております。

本日はご多忙の中、岡山商科大学の岡本教授を始め、中国運輸局岡山運輸支局の勢井次長様、黒田玉野市長ほかパネラーの方々に、それぞれの異なった環境、立場から貴重なご意見をお聞かせいただくことになっております。

また、本日のシンポジウムのために、中国でご活躍の水原総経理様に基調講演をお願いしております。ご多忙にも関わらず快くお引き受けいただきましてありがとうございます。この場をおかりしまして厚くお礼を申し上げます。水原様には、普段聞くことができない中国の造船事情や今後のグローバル的な経済の見通しなどをお聞かせいただければ幸いです。

最後になりましたが、このような暑い中、ご参加いただきまして、皆さん、大変ありがたく思っております。最後までご静聴 宜しく申し上げます。

簡単でございますけれども、挨拶とかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

## ○司会

ここで、本日のシンポジウムの開催に当たりまして、“衆議院議員萩原誠司様”、“衆議院議員津村啓介様”より「ご祝辞」をいただいておりますのでご報告いたします。なお、ご祝辞は会場入り口に掲示させていただいておりますのでご閲覧下さい。

続きまして、昨年の「職人塾Ⅱ」の報告及び本年度「職人塾Ⅲ」の事業展開につきまして、玉野産業振興公社船守事務局長から説明をさせていただきます。

## ○船守利幸 事務局長

只今、紹介いただきました当産業振興公社事務局長の船守でございます。

「職人塾」の経過につきまして報告をさせていただきます。

平成20年度、本年度でございますが、それも含めまして報告とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

### 1：いきさつ

「職人塾」につきましては、一昨年、国の内閣官房都市再生本部におきまして公募されました「全国都市再生モデル事業」というメニューに、玉野市から、「技術のまち玉野再生、職人塾設立に関する調査」という調査名をもちまして応募をさせていただいたものでございます。

この事業は、全国から541件の応募の中から、指定149件ございまして、そのうちの1件が玉野市に職人塾として選定をいただいたものでございます。

この調査の目的は、「大きな社会問題になってます団塊世代の大量退職に危惧し、これまでに培われて参りました造船の技術を次世代に伝承するとともに、若者や市民の皆様へ製造業へ関心を今一度深めて頂き、若者に地元での就職を促し、ひいては玉野市の商工業の振興と町の活性化に寄与するというような目的で行ってきたものでございます。その年の6月に国の選定をいただきまして、7月に職人塾の実行委員会を設立し、組織づくりができ上がったものでございます。と同時に、関係者の皆様へ将来の課題、問題点等のアンケート調査を実施しまして、注目度の高

## 職人塾経過報告



かった将来的に後継者の不足が予測される物づくりの業種の中からトライアル事業を展開していくことに決めたわけでございます。そこで、このトライアル事業の運営組織といたしまして、「設計分科会、溶接・鉄工分科会及び機械加工分科会」の3つの専門部会を立ち上げ、今に至ったものでございます。以上が職人塾を立ち上げました経緯でございます。

それでは、それぞれの分科会の活動につきまして、平成19年度、昨年でございますが、簡単に報告させていただきます。

## 2：平成19年度 報告

4月25日に「職人塾実行委員会」を開催いたしまして、3分科会のトライアル事業計画を、前年度の反省点を十分に検討致しまして、「**職人塾Ⅱ**」の事業方針を決定いたしました。

まず、「**設計分科会**」では、機械設計講座を7月3日から8月2日までの間、週2日の日程で10日間、延べ40時間をかけまして、国家試験2級並みの機械類の要素や設計基礎を学習するとともに、“ウインチの設計演習”等を9名の若い従業員の方が受講されております。また、AutoCAD研修を、9月6日から11月1日までの間に、延べ16時間をかけまして、初級用のCAD研修をするとともに、操作及び製図の基礎演習を、14名の若い一般の方及び従業員の受講生で実施いたしましたところでございます。

次に、「**機械加工分科会**」でございますが、夏休みを活用いたしまして、商業高校の生徒さんに、機械での加工及び操作の実体験を通じ、ものづくりに興味を持っていただく目的で、10名の生徒さんに、玉野備南高校実習棟で延べ10時間体験研修を試みたところでございます。

また、その年度に就職されました新人社員の方には、施盤加工とか機械一般の研修を、10月から11月にかけて、延べ30時間の「機械加工新人コース」として、6名の方が受講研修をされております。

次に、「**溶接・鉄工分科会**」でございますが、先ほどの「機械加工分科会」でございました夏休みを活用いたしまして、商業高校の生徒さんに溶接についての初歩知識と実習及び船模型の製作実習を通じ、船づくりに興味を持っていただく目的で、9名の生徒さんに、三井造船の研修センター及び玉野備南高校で、延べ25時間の「模擬インターンシップ」での体験研修を行ってきたところでございます。また、溶接に従事しておられます新人の方々に、「溶接・鉄工初心者コース」として、溶接作業の基礎知識及び溶接技能の習得を目的に、10月から12月に、延べ40時間かけまして、三井造船研修センターで、11名がJIS資格の取得並みの講義、実技を受講をされております。また、高度な溶接技術と技能を身につけ、中堅技術者として後輩の指導に当たる等の目的で「溶接・鉄工上級者コース」として、12月から3月までの間、延べ40日間をかけまして、三井造船研修センターで12名が受講され、JIS資格の国家試験に、初級、上級の各コースの方が挑戦され、見事全員が合格されております。

以上が平成19年度の「職人塾Ⅱ」の各分科会でのトライアル研修及び体験研修の実績でございます。

なお、「職人塾Ⅱ」が大きな成果を上げました要因は、受講生の皆様、講師の方々並びに実行委員の各分科会の幹事の皆様、本塾にご協力を賜りました皆様方の熱心さと努力のたまものと、事務局といたしまして思慮しているところでございます。

その他ほかに、「**ソフト面での事業展開**」といたしまして、7月20日に開催されました来春の就職を目指している市内外の高校生に地域の企業を紹介するとともに、当市の製造業の実態を理解していただく目的で、玉野公共職業安定所さんが主催されました「地域産業フェア」に参

加してまいりました。

また、8月7日には、この場で第1回の「技術のまち活性化シンポジウム」を開催いたしました。内容は、皆様ご承知のとおり、「地域産業の課題や将来像」につきまして、岡本教授をコーディネーターに、パネリストを務められてました4名の方々から貴重なご意見等をいただきました。なお、平成19年度の「職人塾Ⅱ」に費やした経費でございますが、県の「**おかやま産業人材育成モデル事業**」及び玉野市の補助金によりまして実施したものでございます。

### 3：平成20年度 報告

次に、本年度(20年度)の「**職人塾Ⅲ**」でございますが、経費につきましては、3分科会及びシンポジウム等の開催を含めまして、財団法人JKA、これは旧日本自転車振興会でございますが、「**自転車等機械工業振興に関する補助事業**」によりまして、概ね2分の1の補助金と、市の補助金と合わせまして実施しているところでございます。

また、本年度も、3分科会の事業展開につきましては、年度当初の「実行委員会」におきまして、前年度の実績を踏まえ、反省点などを検討を重ねた事業計画に基づきまして実施しているところでございます。

まず、「**機械加工分科会**」では、「トライアルコース」の新人研修生9名を、4月下旬から5月上旬の6日間、研修諸条件が昨年と異なったことによりまして、ポリテクセンター岡山におきまして研修を行ってまいりました。また、「体験研修」としまして、高校生8名が、昨年同等の研修を、玉野備南高校で3日間行い、今年新設しました体験研修の目玉といたしまして「工場実習」を2日間実施しました。これは、4社に分けまして2人を1組に7月下旬に計5日間実施をいたしましたところでございます。

次に、「**設計分科会**」では「**機械設計講座**」を開講し、内容的には国家検定2級レベルの高水準の講座でございますが、三造エムテックの大会議室におきまして、30名が5月から7月にかけて延べ50時間受講されております。また、「Auto-CAD研修」につきましては、産業振興ビルにおきまして8月下旬から10月中旬の間、受講生18名で研修を予定しているところでございます。

次に、「**溶接・鉄工分科会**」では、体験研修といたしまして、7月下旬から5日間、高校生及び大学生を含めまして8名で三井造船訓練センターで溶接の初歩知識と実習をし、また玉野備南高校におきましては、船の模型づくりを実施したところでございます。なお、昨年同様の溶接の従事社員に、溶接作業の基礎知識として技術の向上を図る一般コースとして、11月から2月下旬まで20名で実施する予定としてございます。今回の座学講座は、初級、上級も一緒にしまして、実技をそれぞれのレベルに分けて実施する予定としておるところでございます。

このようなことから、現在、トライアル事業は各分科会とも順調に進捗しているところでございます。

以上で平成19年度職人塾Ⅱの事業報告及び本年度の職人塾Ⅲの事業展開状況についてのご説明とさせていただきます。どうもありがとうございました。

職人塾Ⅲ:

# 基調講演



演 題 :

「中国の船用界事情」

・講 師 :

「上海中船三造ディーゼル有限会社(CMD)」董事・総経理 水原 修平氏  
はじめに

水原氏は、三井造船の機械部門のOBで、1944年岡山出身。2006年に中国の上海にある、「三井造船株式会社」、「中国船舶工業集团公司」と「フートン重機有限公司」の3社により設立された船用ディーゼル機関製造の合弁会社「上海中船三造ディーゼル有限会社」で 取締役社長として活躍されています。

なお、この合弁会社(CMD)は、今後、急速な成長が見込まれる中国造船事業のエンジン部門の需要にこたえる為に設立された国営企業であります。

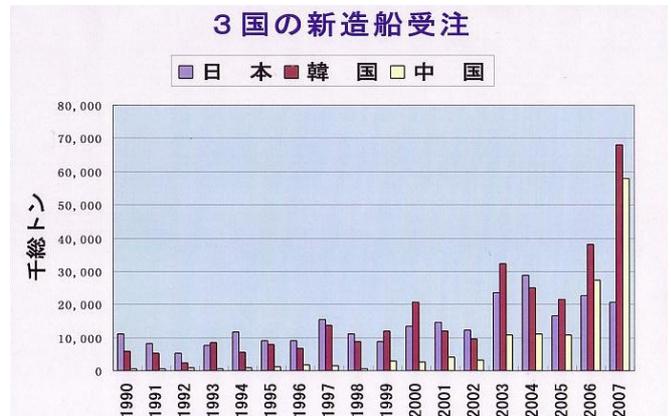
工場建設は2005年3月頃の浚渫工事より始まり、2007年後半から工場の稼働を開始され、2008年度には年間100万馬力の生産を、さらには、将来、年間300万馬力以上の生産を視野に操業中とのことです。

< 講演細目 >

1. 造船業界の現状、中国における造船
2. ディーゼル業界
3. 上海観光
4. CMD(上海中船三造ディーゼル有限会社)の概要
5. 中国事情
6. これからの船用界

## 1. 造船業界の現状、中国における造船、

世界の造船受注量は2002年頃より急速に増加の傾向を示している。



これは、BRICsの経済発展に伴う物資の需要の伸びによると考えられる。

世界の造船83%は、極東アジアの企業が占めている。

日本は1998年まで世界のトップであったが、その後、韓国にその座を譲った。

中国の造船受注量は、2003年(1,000万トン)頃より急速に伸び2007年には6,000万トン(この時、日本:2,000万トン、韓国:7,000万トン)にも達する状況にある。

## 2. ディーゼル業界

### 1) 船用ディーゼル業界の世界シェア

MAN B&W;74%, SULZER; 19%, UE;6%

### 2) 日本のシェア

MAN B&W;76%

(三井:46%, 川崎, 日立;27%, マキタ;

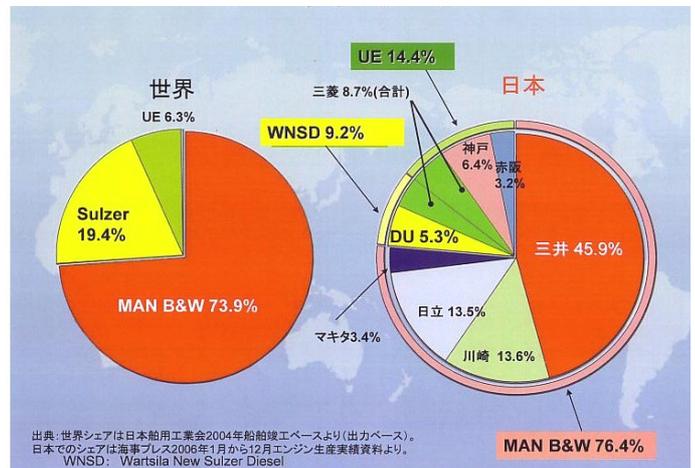
### 3. 4%)

SULZER;19%(DU, 三菱),

UE;6%

### 3) MAN B&Wの生産量で見た場合

生産順位は 現代E>三井>Doosan>Stx>中国メーカーとなっている。



以上の現状より 中国は新造船受注量に比べ、エンジンの生産が間に合っていないのが分る。そこで、中国政府は、未だ名も無いメーカー(10社)も含め2010年頃までには、一応生産体制を確立させ、2015年には、平均300万馬力位に計画しているとの話である。

・中国造船業の3グループ・・・下記の3つに分類されている。

1) CSSC: 中国船舶重工業集团公司・・・主として北部, 西部地区

2) CSIC: 中国船舶工業集团公司・・・主として上海, 沿海, 南部地方

3) その他のグループ: 地方政府管轄下の造船企業と外資との合弁企業等

### 3. 上海観光

日本と中国の比較			
	日本	中国	比(中/日)
面積 Km <sup>2</sup>	38	960	25
人口 万人	12,776	131,180	10
密度 人/Km <sup>2</sup>	336	136	0.4

#### 中国の4大経済発展・期待地区

- ・京津冀地域: 北京, 天津地区
- ・渤海湾沿岸地域: 大連, 青島等
- ・長江デルタ地域: 上海, 杭州, 舟山群島等
- ・珠江デルタ地域: 香港, アモイ, 広州等

#### 上海と東京の比較

- ・ビルが東京の300余に比べ、4000余(約13倍)・人口1,845万人(1.44倍)、面積3.35倍

### 4. CMD(上海中船三造ディーゼル有限会社)の概要

所在地: CMDは、上海中心地区より高速で約80Km南、国際空港浦東空港より40Kmで上海～CMDの中間点にあり、その南“東海橋(32km)”にてコンテナターミナルの港に至る。

工場: 敷地は、1kmX400m≒400,000m<sup>2</sup>、事務所、工場(60mX800m、機械設備、組立&運転設備、天井クレーン(350トン、150トン等)、搬送台車(650トン)、積出突堤第一期分完了で、未だ、全てが完成していない。

従業員: 650人で増員中、29才以下53%・幹部39名、ホワイト250人

### 5. 中国事情

「企業の業務と中国人の考え方の特徴」をハイライトすると下記の様である。

- ・契約社会＝職責と評価が直結。個人主義である。
  - ・・・CFT(クロスファンクショナルチーム)による作業が出来ない。
- ・三つの指令系統がある。会社・中船グループ・共産党の3系統である。
  - その為、判断、指示に協議が必要な時もある。

- ・下記点も配慮の必要あり。

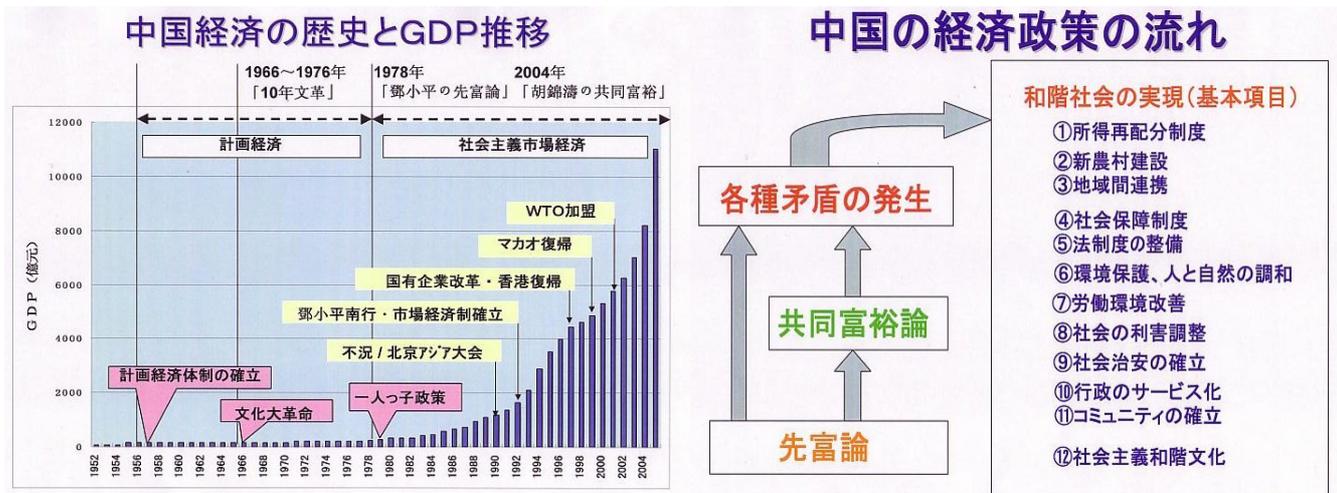
<業務の進め方の比較> 添付表参照

<中国人の考え方> 添付表参照

	中国	日本
業務内容	個々に定義/職責	一般的指示
業績評価	成果を定量的評価	総合評価
年功要素	殆どなし	緩やかにあり
罰則	大変厳しい罰金	緩やか?
総合的	性悪説に立脚?	性善説か?

- ・コピーすることは技術・開発である?
- ・技術指導さえあれば何でもできる?
- ・ノウハウ等への対価の支払いは困難?
- ・形さえ出来れば製品・商品になる?
- ・教えてもらった知識は自分だけの物?
- ・中国は必ず成功する?
- ・(中華思想+失敗経験が無い?)

## [中国の経済と政策]



<先富論> 1978年鄧小平氏が唱えた先ず富める人から富み、一般を引き上げてゆくと云う雁行型の考え方。

<共同富裕論> 2004年児錦濤氏が唱えた経済政策。現在は各種の矛盾と格差を生みながら“和階社会”の実現に向かっているとのことだった。

### 中国人(若者)の良さ

- ・ プライドが高い。
- ・ 自立心・向上心が強い。
- ・ 自己主張が強い。
- ・ バイタリティがある。
- ・ 優秀で勉強家が多い。
- ・ 困難の中でも光明を探している。

<一人っ子政策> 1979年に採られた政策 その結果、左表の様な気質の人が出てきた。

日本人と比較すると、“役職と肩書きが欲しい” “出世の為なら多少つらくとも我慢する”と云う人が多い様だ。また、職を選ぶ場合、“給与の高さ” “これは、定着率との関係あり,” “ブランドイメージ” “が強い,” “スキルアップ” “そこで自分が成長出来るかとの考えが強い等であるようだ。

礼儀正しさが薄れ、日本と殆ど変わらなくなった様だ。

一人っ子の為、家庭の経済力も日本をしのぐレベルにあり、大事に育てられ、海外留学も多い様だ。

## 6. これからの船用界

MAN B&Wのデータに依ると、BRICsの経済発展に伴って船舶の需要は右肩上がりに増加傾向の様だ。

中国10社の船用ダイゼン生産計画も現在名も無く、生産もしていない処が2010～2015年頃には生産が可なりあり、2015年には、100～500万馬力/社の生産計画である。これは、バブルでなく実需に基づいて伸び続けると云うことである。

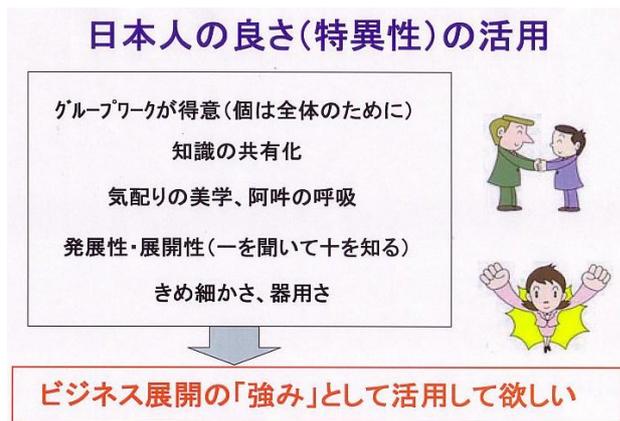
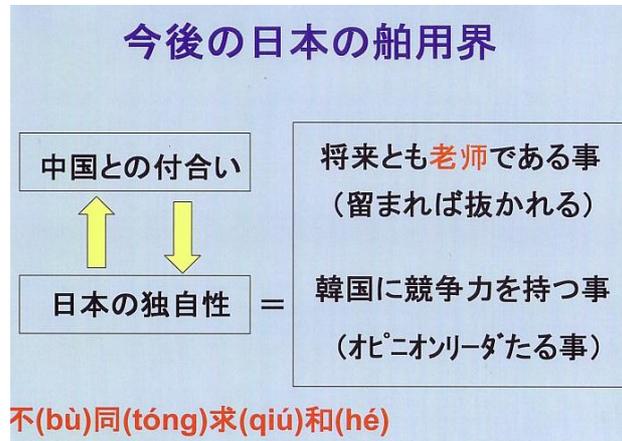
<今後の日本の船用界に求めるもの>

今後中国との関係を見捨てる訳にはいかないだろう。そうであれば、我々は中国と、上

手なお付き合いをした方が良いのではないかとの話で、しからば、どのように心構えが必要かと云ったことからの指摘があった。それは、

**“不同求和”**の心構えで付き合いことが肝心ではないかとの話であった。

不同救和とは、両国の国民性は大きな違いがあるが、和を求めることは両国とも同じと云うことある。



これからは、図表にまとめられたような日本人の良さと云う“特異性”を活用して「同じものでも味の違ったものができる」との自信を持って、発想の転換を図りつつ、如何に短期間で、消費者が好む商品(ソフトを含む)を世に出すかという話があった。

以上





# パネルディスカッション

## 「明日のものづくりに若者が何を求めているか」

### ○ 司 会

それではお待たせ致しました。

本日は 200人近くのご参加ありがとうございます。御座います。

これより“パネルディスカッション”を始めさせていただきます。

このパネルディスカッションでは、製造業界の振興発展を願い、それぞれの立場で考えられていること、更には、これまでの経験の中で感じられることなどにつきまして、お話を頂きたいと思っております。

はじめに、パネリスト、並びに、コーディネーターの方々を簡単にご紹介致します。



向かって左側の席から、**玉野市長の黒田晋様**です。

現在、玉野市の行・財政改革の推進を図り、健全な財政の確立と市民との協働のまちづくりに日々精力的に取り組んでおられるところでございます。



そして、そのお隣が**玉野公共職業安定所長の原 直美様**です。

本年度、玉野にご就任された新所長さんでございます。ご出身地は山口県とお伺いしております。玉野市の雇用に関する業務を精力的に取り組まれておられ、明るく、バイタリティーのある方でございます。

そのお隣は、**玉野商業高等学校の校長先生で 内田 太様**です。

本年4月に教頭から校長に ご就任されまして、昨年度から取り組まれております“スーパー専門校”

として、また、日々多忙でございますが、職人塾の体験研修で生徒さんを参加させていただくなど、いろいろとご協力、ご支援を頂いております。

右側の席に移りまして、**中国運輸局岡山運輸支局次長の 勢井 利博様**です。

勢井次長さんは本年4月に岡山運輸支局にご就任されました。造船業界のプロフェッショナルなお方で、幅広くご指導頂いており、地元造船業の発展にはなくてはならない方でございます。

そのお隣が、**三井造船株式会社玉野事業所 総務部長の 仲田 正幸様**です。

仲田様は、玉野事業所の生産事業から従業員の管理まで、あらゆる分野でご活躍されておられます。今回、このような面からいろいろとお話が聞けるのではないのでしょうか。

次に、**職人塾実行委員会委員長の 三宅 照正様**でございます。

「職人塾」の設立に当初から非常に熱心に取り組んで頂いております。昨年度から“玉野商工会議所の会頭”として玉野市の商工業の発展に活躍されておられます。

最後に、本日のコーディネーターをお務め頂きますのは、岡山商科大学商学部長の岡本輝代志教授でございます。

岡本教授は、これまで玉野市の行・財政改革懇談会や玉野市まちづくり総合計画懇談会の座長を務められ、玉野市に関しましては非常に造詣が深い方で、常々ご指導、ご尽力を頂いている方です。

それでは、岡本先生、よろしくお願ひ致します。

## ○コーディネーター（岡本教授）

それでは、只今から“パネルディスカッション”に行きたいと思ひます。

先ほどすばらしい基調講演を聞かせて頂きまして、「あっ、こういう話し方もあるのかな」と私も勉強させて頂きました。

### <中国について>

中国に関しましては、私もよく講演しますが、会社の内部のことがいま一つ解らなかつたわけですが、今日の話でかなり解つたかな という感じが致します。条件つきではございましたけども、よく解つたと思ひます。

最終的には、“日本人のよさ、特異性”というものは、ビジネスに活用できると。当然、このことは若い人にも言えるんでないかと思ひます。

私も中国へはよく参ります。来月も また、行きますけども、年に五、六回。いや、六、七回行っております。

若い人という意味では、私も中国の学生、私のゼミだけでも卒業生が100名位おまして、上海でも、大連でも、行けば同窓会が、すぐ開かれるということで、先程の乾杯じゃないですけども、上手に飲まなければ ぶっ倒れます。余り酒が嫌いな方じゃないわけですので、つい々飲んでしまいますけども。

そういう中国の話を一寸させて頂きまして、先ほどの“GDPの話”がございましたけども、先般、オリンピックの開会式がございまして、開会式が終わつた直後、日本人のいろんな方から聞きましたのは、“中国を見直した”というような反応でございまして。非常にいい反応でございまして、これがアメリカの方では、冗談じゃなく、オリンピックにおけるメダル数がアメリカを追い越したら、これは大変なことだな というような議論が、まじめに議論されておるようでございます。それに併せまして、いろんなシンクタンクが2035年にはアメリカを抜くだろうと。これはいろんな人が言っておりますけども、恐らく抜くんじゃないかと思ひます。

先ほど講演の中でも“中国は世界一”というのがいろんなところで見られておまして、そういった意味では、このオリンピックが成功裏に終わるといふことは、世界の地図が変わるといふことにも繋がっていくんじゃないかと思ひますので怖いなという感じでございます。あるいは、考え方によっては、それによって更に日本も伸びるのかな といった感じも致します。

若い人を見た場合に、先ほど1980年から、“一人っ子政策”ですね、それ以降から大分変わってきたということですが、私も15年間位、留学生を看ておりますけども、相当変わってきました。15年前の大学生、あるいは、それに近い年齢というのは、一人っ子政策以前でございます。「非常に礼儀正しいです」。いま、彼らも40歳を超え、中国社会の中核におりますけども、非常に礼儀正しい。

今年やってきた20歳すぎ位の子を見ますと、「日本人と変わりません」。むしろ、日本人よりも豊



かな家庭から来ておるようです。お父さんの給料100万円とかで、桁が大変違うんじゃないか と思います。年収でしょう！と言ったら、いや、月ですよ！という位の金持ちが増えてきておりますから、そういう意味では、若い人、“新世代”という人達は、ものの考え方も大分変わってきておるんじゃないか と思います。

水原総経理さんとしては、これからそういう人の舵取りをしなければいけないということですから、シンドサが また増すんじゃないかな！ と思いますので、頑張ってくださいと思います。

### <ディスカッション進め方>

そういうことで、本日のテーマでございますけども、

#### 「明日のものづくりに若者が何を求めているか」

ということで2時間という時間を頂いております。

もう、既に予定しておる時間から大分経っておりますけども、終わりの時間は5時20分にさせて頂きたいと思います。ご参加の皆さんには、いろんな予定があると思いますので、終わりは5時20分ということにさせていただきます。

6名のパネリストの方が、それぞれこのテーマに沿って、まずは 約10分程度でお話をお願いします。丁度ここに、例のリンリンが、あればよかったんですけども。しかし、なかなか性能がいいリンがあると思います。それは、数が多ければ多いほど、1人1分増えましても 6分増えるという計算ですから、限りなく時間は各自で守って頂きたいと思います。

それが終わりましたら、そのお話を聞いた中身を 私の方から私なりに解釈して再質問を6名にさせて頂きます。これが大体3分位、三六(さぶろく)、18分という形でございます。

これが二、三回あると思いますから、40分位掛かろうかな と思います。

残った時間に、私の方が、全体をまとめさせていただきます。これは残った時間ですから、何分というのは判りません。長くなるかも判りませんし、短くなるかも判りません。

更に、それでも時間が余りましたら、皆さん方から、パネラーの皆さん方に質問をして頂きたいと思っております。これは確率としては、5分5分でございます。フロアからの質問を頂けないかもしれませんが、出来るだけ頂けるように 締めていきたいと思っております。

そういうことで、最初は、一人一人にテーマに沿った話をして頂きます。皆さん方もちょっと 時計を見ながら、ちょっと 長くなったよ！ということがありましたら、何らかの合図をして頂ければと思います。私も見ておきますけど、お願い致します。

それでは、最初に職業安定所と申しますか、労働市場に関しましてはプロでございます。そのプロが全国、あるいは、岡山、あるいは、玉野 というレベルで、こういった形で労働人口が動いておるか、あるいは、職を求めているか といったところの話をして頂きたいと思っております。お願いいたします。

### ○パネリスト (原 所長)

ご紹介頂きました、原でございます。 どうぞよろしくお願い致します。

平素から ハローワーク業務の推進に、ご理解と、ご協力を賜りまして、厚くお礼を申し上げたいと思っております。

今日は、このようなシンポジウムのパネラーということで大変緊張しております、うまく話ができないのではないかと心配しているところでございます。

私、ハローワークの所長ということで、テーマに沿った話になるかどうかわかりませんが、何時も、いろんなところで話しているようなことと同じような話になるかとは思いますが、「**労働市場の状況と、窓口における状況**」についてお話をさせて頂きたいと思います。

### <労働市場の状況と、窓口における状況>

景気は後退期に入っているようで、やや陰りが見えてきておりますが、まだ好調というようなことで、それと団塊世代の大量離職の時代を迎えまして、労働市場のデータと致しましては、まだ明るい状況でございます。

今年の6月の状況なんですが、有効求人倍率について、全国では0.91倍ということで、昨年の6月が1.07倍でしたので、0.16ポイントほど下がっております。岡山県につきましても1.24倍で、昨年の6月が1.43倍でしたので、0.19ポイントほど下がっております。しかし、ハローワーク玉野、玉野の安定所管内では1.65倍ということで、昨年6月1.61倍でしたので、0.04ポイントほど逆に上がっております。

全国では、昨年の12月から大体1倍を割っておりまして、また、岡山県でも下降気みですけどもまだ、高い状況が続いているというような状況です。

ただ、全国、あるいは、岡山県では、数字的には高いんですけども、“**正社員の求人倍率**”で見えますと、それほど高くない状況となっております。

有効求人の中には、“派遣、請負、パート”といった正社員以外の求人が相当数を占めております。製造業への労働者派遣が規制緩和されました平成16年3月以降、労働者派遣を業とする労働者派遣事業の許可件数とか、大手の人材派遣会社の全国事業所設置が急上昇いたしまして、ここから出される求人が、有効求人倍率を押し上げるような大きな要因になっておりました。

しかし、最近では、“派遣求人の受理の厳格化”というのが行われまして、求人の減少も見られているところでございます。

また、“求職者の方”といいますが、大半が正社員を希望されていることから、“ミスマッチ”が大きくなっているというような形になっております。そのため、ハローワークでは正社員求人の確保が課題となっておりまして、ことある毎に**正社員求人の提出**をお願いしているところでございます。また、全国的には求人数が低下傾向にあることから、求人数の確保にも力を入れているところでございます。

そこで、「**正社員の有効求人倍率**」についてなんですけども、6月は岡山県が0.76倍、昨年は0.73倍でしたので、0.03ポイントほど上がっております。**玉野の安定所管内**で見ますと1.27倍ということで、昨年1.15倍でしたので、0.12ポイントほど上がっておりますが、先ほど言いましたように、全体に比べると、求人倍率は低いというような状況になっております。

**玉野につきましては**、労働者派遣事業の全国展開の派遣会社とか、事業所設置は少ないため、派遣の求人は少ない状況にあります。出てくる求人につきましては、常用、あるいは、パートというのが多くなっております。今のところ**パートが大体4割程度を占めている**ような状況でございます。全体の求人倍率、正社員の求人倍率を見ましても県内では高い状況にあるんですけども、逆に“**求人の充足率**”ということを見ますと、県内で一番低い状況が続いております。

求人は多いんですけども、特に多いのが製造業、それから医療福祉関係ですけども、何といても**玉野では造船関係の求人がかなり多くあります**。

ハローワークとしては、**求人されてる事業所に応えたい、紹介をしたい**と思っております。しか



し、経験などを求められているということもありまして、対応できる求職者が非常に少ないといった状況にあります。事業所では、“若くて元気がよくて「もの」をつくるということに関心がある人材”を求めていらっしゃると思います。

**ハローワーク玉野の窓口の求職者**の年齢構成、6月の新規求職者を見ますと、265人求職者がありまして、そのうち35歳未満が114人ということで、全体の43%を占めているような状況となっております。しかし、残念ながら、造船関連のものづくりの現場には紹介できてないというのが現在の状況でございます。

**就職希望地**なんかを見ますと、若い人は玉野で就職することもいいんだけど、岡山とか倉敷方面へ出ていきたいというような人もかなり多いようでございます。求職申込書の中に希望する地域というのを書くようになってはいるんですけども、書いてあるのが、そういうのが多いというような形になっております。

ハローワークといたしましては、求人をしていただいている事業所への即戦力となる方を紹介したいんですけども、難しいのが現実ということになっております。窓口の職員の方に状況を聞いてみたんですけども、昨年、この会場でお話ししたと思うんですけど、前任の所長がですね。同じ様な話になってしましまして、“**若い人が、経験がなくても教えてくれるということで行ってみたいかというような話をしてもなかなか興味を示さない方が多い**”というようなことであります。中には行ってみようかなという人もあるけども、**辛抱ができない**と。事業主の方は育てたいということで教えていらっしゃるんですけども、これを怒られていると受け取ってしまったというようなケースもあったと聞いております。この辺りも解ってもらうようにする必要があるのではないかなというふうにも思っております。

直ぐにでも仕事ができる人、即戦力となる者が要るわけですから、会社としては、悠長なことは言っていられないかもしれませんが、じっくり教えていくということも必要ではないのかなというふうに思います。

そういう意味で、いろいろな事業所から集まって技術、技能を学べる。或は、技術者を育てていこうという姿勢を対外的にアピールすることにもなるこの「職人塾」、素晴らしいものではないかなというふうにも思っております。

それと、求職者が持っているイメージと致しまして、製造業は「きついか」「厳しいとか」、いろんなことを言ったりするようなこともあるように思われますけども、そのような負のイメージといいですか、そういうものを「プラスのイメージにしていくような必要もある」のかなというふうに感じております。

#### <求職者の希望>

正社員として就職し、安定した仕事につきたいということで、**求職者の方は何をしたいかという仕事の内容ではなく、給料、休日、残業のあるなし、それから退職金、賞与の欄**というのに求人を見たりするときに目をやっているというような傾向があるようです。

それは、**自分の能力とか、適性ではなく、**という傾向があるような感じがいたします。ただ、高齢者の方は自分の思うような仕事が少ないということもありまして、希望条件緩和して、就職できればというふうな感じも受けております。

#### <企業側の希望>

全てがそうだとは思いませんけども、**事業所の方は**といいますと、窓口の職員の何人かが感じたことなんですけども、**人が欲しいんですが人材を選ぶ、即戦力、職歴・経験のある人を採用したい。教えて、辞められたら投資したものが返ってこない、**これは玉野に限ってということではないんですけども、そういう傾向があるんじゃないかというふうに言っております。

また、30歳を超えると職種転換は難しい、未経験であれば20歳代までという感じがあるんじゃないかなというふうに思います。当然、そう思われるのではないかと思います。

しかし、それでは、若い人が育たない。このようなことから「職人塾」が意義深いものとなると思います。

### <求職者、若者へのPR>

そのような状況の中で感じる事は、

まずは、1つ目は「**ものを作る魅力に喜びを訴えていく必要があるのではないか**」と思うわけであります。一部の小さな部分でも自分が関わって作り、それぞれが集まり、大きな一つのものができるあがった時の喜びを分かってもらふこと、また自分で作ったものがこのなかに生きるのだということも分かってもらふことではないでしょうか。

また、技術、能力があることは自分の強みといいますか、力をつけることになるように思います。また、**後輩へ技術の継承ができるという喜び**もあるのではないかなというふうに思っております。こういうふうなことも知らせていくようなことも必要ではないかなというふうに思います。

ものづくりが、若者にとってあこがれの存在となるようにしていくことも必要ではないかなというふうに思います。

2つ目に、最近では、「**仕事とライフバランスというのが重視されており、製造の仕事の場合には、それが魅力になるんじゃないか**」とも思っております。ものをつくる仕事は、勤務時間というのがある程度はっきりしていることが多いんじゃないかなというふうに思います。仕事以外の余暇の活用とか、家庭を重視するというのもしやすいんじゃないかということもあるのではないかなと思いますので、その魅力も知らせていく必要があるのではないかなと思います。

3つ目に、それではそのものづくりの喜びや、ライフバランスの魅力を知らせるのはいつかということですけど、「**まず、学校の教育の中で**」ということになるんじゃないかと。今はインターンシップとか、多少働く現場を見る機会も増えてきてはいますが、働かなければならない、なぜ働かなければいけないのかというようなことを真摯に受けとめていないような傾向もあるんじゃないかなと思います。ですから、この**働くことの大切さを教えていかないといけないんじゃないか**というふうに思っております。

また、高校生の場合、本人が、ここに行きたいとか言っても、保護者の方にブランド志向があったり、何か大企業とか、企業名を重視するような傾向があるというようなことも聞いておりますので、出来れば本人だけではなくて“**保護者の方にもものづくりのよさ といいますか、喜び といいますか、そのようなことを教えていくというか、わかってもらう必要もある**”のかなというふうにも思っております。

また、小学校、中学校のとき、早い段階から“ものづくりの喜びなど、ものづくりに関する知識を教える必要があるのかな”というふうに思います。

それから、**社会に出てからでは**、私どもハローワークでも求職者の方々に直接接するということとなりますので、“ものづくりのよさとか喜びをアピールしていく必要がある”と思っております。

そこで、**事業所の方へのお願い**になってしまうんですけども、職員も紹介をするときに、現場が分からないとうまく説明ができないということで、職員が職場見学ということで会社を訪問させて頂いたりしております。微々たる力ではございますけども、目で見て感じたこと、ものづくりのよさ、喜びを求職者の方に訴えていきたいと思っております。ハローワークの方から見学をお願いしたときには、ご協力頂けるようお願いできればと思います。

また、当所では「**職場見学ツアー**」ということで、求職者からの希望者を募りまして、実際の働く現場を見てもらうようなことも行っております。もし、やってみようというようなことがあればお知らせ戴ければ、やっていきたいと思っておりますので、こちらの方もご協力頂けたらなというふうに思います。

### <トライアル雇用という制度>

それと、一般求職者で即戦力になる人材が少ないということを言いましたけども、ハローワークの紹介によりまして、企業に短期間雇用されまして、その間に仕事をする上で必要な指導を受け、その後、本採用への移行を狙いと致しました「**トライアル雇用という制度**」もありますので、こちらも利用して頂ければと思います。詳しいことは安定所の窓口で確認して頂ければいいんじゃないか というふうに思います。

ちょっと、時間を越えたかもしれませんが、最後は安定所のPRとなってしまうかもしれませんが、以上でございます。

### ○コーディネーター（岡本教授）

はい、ありがとうございました。

教育が非常に大事であるということでございます。昨日ですかね、倉敷の方、水島の方で“小学生のものづくりフェア”という形でやっておりましたけども、小学生のときから“ものづくりに対して関心を持たせていく”ということも大事じゃないかと思えます。

ということで教育が出ましたんで、次は、そのお隣ですけども、内田さんの方にお話ししたいと思います。

### ○パネリスト（内田校長）

はい。ただいまご紹介いただきました玉野商業高校の内田でございます。

平素から本校の生徒が、就職等で大変お世話になりましてありがとうございます。

それでは、シンポジウムの題について お話をさせていただきます。

まず、玉野商業の基本的なスタンスとして、本校では「**地域に優秀な人材を送っていくということ**」をまず、第一の基本的なスタンスとしています。そのために、生徒の方には、地域を理解させ、地域を体験させ、地域の持っております教育資材、或は、人材を活用して、社会人としての基礎力を身につけさせての職業観、勤労観を高揚させ、将来的には社会に貢献する力をつけたいという基本的なスタンスを持っています。

それで、事前のシンポジウムの打合せがありまして、「**若者は何を求めているか**」ということが題目になりました。丁度本校では、テストが終わり、夏休みを直前に控え、もう余りアンケートをとる機会が無かったんですけども、急遽、1、2、3年の各1クラスで“**アンケートを採ってみました**”。これを基に本日、話をさせていただきます。その他の話として、本校では 昨年から“**スーパー専門高校**”ということで文科省の指定を受け、あらゆる事業をしておりますので、その紹介というような格好になると思いますので、よろしくお願い致します。



### <生徒の現状について>

まず、この7月に1、2年、3年生の1クラスを対象に調査を行いましたので、（本校全員ではありませんけども）**特定のクラスが対象ですが、ある程度考え方はわかるんじゃないかな**と思います。

まず、「**就職したいところはどこですか**」ということで生徒の方に聞いてみますと、

1年生の27%が玉野市内、2年生になるとこれが12%に下がります。そして、3年になると、本校の教育力でしょうか、31%が玉野市内へ就職したいという具合な格好になっています。

その次に続くのが県内で、1、2、3年の順でいくと20%、25%、40%というような形になっています。殆どが岡山県内のどこかの企業に就職したいと、出来れば玉野市内ということです。

「玉野市内を希望しない理由」は何ですかと、聞いてみますと、

就職先がないというのが1年生で56%、2年生が44%、3年48%と、こういう形になっています。それともう一つは、都会に行きたいというのが1年が21%、2年17%、3年10%。親元を離れたいというもあります。

それから、「つきたい職種」になりますと、これは1年生が事務が30%、2年生29%、3年生11%という具合に事務系は減ってきてます。それに対して、**営業販売**は1年生、28%、2年生23%、3年生31%となっています。

「ものづくりの方」なんです、これも聞いてみますと、**技能で1年生30%、2年生34%、3年生41%**という格好になっています。増えてきている理由は、3年生、2年生になりますと“求人票がこうなっていますよ”というのを見ていますので、あなるほど、玉野市内へ就職する場合は、技能の方へ行くと確実に就職できるなという事が現れています。これが大体の子供達の考え方です。

実際、どうなっているかといいますと、「**就職状況**」ですけれども、平成17年度は玉野市内が**43%**、18年度は**61%**、19年度は**49%**と、殆ど半分程度の者は玉野市内へ就職ということになっています。また、「**産業別**」でいきますと、17年度は**製造が52%**、18年度**60%**、19年度**56%**というような傾向で、これも半数以上は製造の方へお世話になっています。職種についても同じような傾向になります。

「**求人票を見る場合**」に一番に何を見ているかということで、これはもう経験上なんですけれども、やはり“**給料を一番に**”見えています。

それから、“**土日が休みかどうか**”。これが大きなウエートを占めています。みんなが休んでいる土曜日、日曜日は休みたいというのが入っています。それから“**残業**”です。今子供がどんどん減っています。そのため**保護者の関係で家から通えるところ**“というようなのも子供達の意向としては増えています。

#### <スーパー専門高校について>

昨年度から「**スーパー専門高校**」ということで“**地域に貢献できる力を育てたい**”ということで“**いろんな活動**”をしています。その中でも一つは、**ボランティア活動を積極的に**やっています。

今年度も、予定ですが3月までに2,169人を今のところ参加させる予定にしています。本校生徒464名ですから、平均で1人あたり4.8回位は、ボランティアとして参加しています。地域のことをよく知っていれば地域を愛せる、そして地域の方とどんどんつき合えば、地域をより知っていくという意味合いで、このボランティアについては力を置いてやっています。

次に、“**大学と企業との連携**”ということで、まず一つは岡山商科大学と連携、商店街の活性化ということで**Web商店街**というのを現在つくっています。

それから、直島にあるんですけども、これは香川大学がやっています「**ぐう**」という喫茶店があります。そこで本校の生徒が行って、実際に接客の態度とかいろんなことを習っています。これもできれば来年は玉野市へそのノウハウを持って帰って何かをしたいという状況です。

それから、“**まちおこしの提案**”ということで、玉野の飲食店マップをつくったり、あるいはフリークーポンをつくっているということで現在進めています。ここでも調査をしています、どうも

保護者の方もそうなんですけれども、玉野市内では余り買い物をしなくて岡山市内へどんどん出ているという調査結果も出ています。

それから、“**社会人としての基礎力の育成**”ということで、これはもう皆様もご存じだと思いますが、イエローハットの鍵山 秀三郎さんに講演をして頂き、その後、岡山で、掃除に学ぶ会の方と一緒にトイレ掃除をしました。それもいわゆる素手でやるということで、なるほど、強い心ができるなということを実感しました。といいますのは、今まで野球部は、最後まであきらめない、しつこいような生徒が育っています。野球部、去年からずっとこのトイレ掃除でいろいろな学校を回ってトイレ掃除をやり強い心が育ってきていると思っています。

### <若者が何を求めているか>

それから、「**若者が何を求めているか**」ということになりますと、やはり先ほど求人票のところでお話をしたのですが、基本的には玉野市内で就職がしたいというのは間違いなことだと思います。保護者も玉野市内で就職をさせたいということになっています。しかし、そのときに自分の就職できる場所がないので、自分が希望して、こういうことをやりたいができない、というのがありますので、**是非、いろんな企業から、いろんな求人を頂ければ、本校の生徒は玉野市内にどんどん残ってくれるもの**と思っています。

### ○コーディネーター（岡本教授）

はい、ありがとうございます。

玉野商業としては、いろんなことをやっているようでございます。

それでは、高校生を含めて実際に人を採用しておるといことで、仲田さんの方、お願いいたします。

### ○パネリスト（仲田 部長）

はい、どうも。ただいまご紹介いただきました三井造船の仲田でございます。

私と三宅会長だけが民間企業を代表するという形になっております。

ということで、今日のテーマの内、1字だけ変えさせて頂きまして、“明日のものづくりに若者が何を求めているか”、“**が**”じゃなくて若者“**に**”何を求めているか”ということで、1字だけ変えさせて頂きたいと思っております。

### <こんな人に来て欲しい>

それで、“**どんな人に来てほしいか**”ということなんですけれども、**基本的には“ものづくりが好きの人”**に来てほしいということなんですけれども、子供のときに、例えば、プラモデルをつくるのが好きで、好きで、たまらなかった というような方が、居れば最高なんですけれども、最近ではそういった模型づくりなんかよりも、パソコンだとか、携帯電話だとか、ゲームだとか、そちらの方に興味を持っている方が多いのではないのかなど。

先程、商業高校の内田先生のお話では、あれ、思ったより製造業を希望される方、あるいは、結果として製造業の道に進まれる方、思いのほか多いかなという印象を受け



ましたけれども、先日、岡山市内の高校の先生に伺ったところでは、最近では、製造業に興味を持つ生徒が減っているということで残念に思っていたところではあります。

ただ、思いますに、**人間というのは本来といいますか、潜在的にというか、ものづくりに喜びを感じる生き物**ではないかな というふうに思っております。

野菜づくりも、ものづくりでありますし、備前焼等の焼き物、それから、最近では、ご婦人方に人気のある押し花のようなものですね。自分が心血を注いで つくったものができ上がったときの喜びというのは非常に大きいものがある。大切なことは、**そういう機会に触れさせるということが非常に大切**のかなと思います。

私どもの場合は、対象物が、鉄で出来た大きな構造物でございます。仲間と共に汗をかいて苦勞して完成させた船が、お客様に引き渡されて岸壁を離れていくとき、あるいは、何トンもある鉄の固まりを溶接で組み立てたエンジンが、初めて力強く回り始めたとき、その喜びというのは感動的なものがあります。そういったものを是非知って頂きたいと思います。

それで、造船業のような重厚長大の製造現場では、若干私のイメージも入っておりますけれども、自動車や家電製品などのように極度に自動化、或は、機械化された製造現場に比べて、まだまだ個人の“職人の技量だとか、経験に頼る分野”が多く残っております。ですから、私どものような造船業においては、**こういった技術、技能を次世代の人にかに傳承して行くかが、今日大きな課題**になっているというところがございます。

そのような製造現場において、“**私どもがどのような人に来てほしいかと言いますと**”、これは、私自身の言葉ではないんですけども、ある方が表現された表現で、言いえて妙な表現があります。ご紹介させていただきますと、野球でも、サッカーでも、柔道でも、何でもいい。運動部のキャプテンをやった人、そこまでは普通でよく言われることですね、“**運動部のキャプテンをやった人で、しかも、選手としては、終始補欠で終わってしまったような人**”、そういうような人です。こんな人物なら、もう私どもとすれば入社試験なしで採用したいというふうに考えます。

それで、先ほど申しましたけれども、**我々の製造現場では“職人のわざ”**、あるいは、“**匠の世界**”が多く残っています。また一方では、非常に努めて“**チームワークが問われる世界**”でもありません。巨大な構造物が数多くの工程に分けられ、夫々の工程が チームで受け持たれています。“前工程との連携”、あるいは、“後工程への配慮”、そういったものが問われます。

そこで、「**チームワークで 仕事ができる人**」

「**協調性のある人、周囲への気配りができる人**」

「**粘り強い人**」、

そういう人が求められる。

私、今日、こういうふうなことをお話しさせて頂こうと思いつつ、先程の“水原さんの講演”の話の最後の締めを聞きまして、ああなるほど、**これは日本の強み、特異性、強みなんだな**と感じました。この分野を益々進めていって間違いないのであろうという思いを強くしました。逆に言えば、そういった気質の中国の人たちに何で負けるんだろうと、先程の干拓地みたいなどころから、1年後にあれよ、あれよ、とエンジンが出来上がった、あのスピードは どこから来るんだろうな、それになぜ、あれだけのものが 出来るのかななどの思いもあります。人海戦術的などころもあるんだろうけど、その辺については、まだ 何か秘密があるのかな というような思いを先程の講演を聞きながら感じました。

## <定着率>

「**定着率**」なんですけれども、定着率はそれほど悪くないと思います。入社1年以内で退職してしまう人は、毎年1人いるか、いないかな、という感じです。

昨年は 約100名の方を採用しましたがけれども、1人だけ辞めてしまいました。「たばこを吸っていて叱られて、出勤するのが嫌になったとか、（後づけの理由かもわかりませんが）もともと来たくなく

かったけども、親に勧められたから三井造船に入った」というようなことで辞めていったのが1人だけいました。

ここ数年、玉野事業所だけでは70人から80名の高校卒業された方を採用しておりますけれども、入社2、3年以内に辞めていく人は毎年数名に留まっているところがございます。入社後3年以上になれば、特別な事例を除けば、ほぼ完全に定着しているのかなと思います。

ということは、概ねそれぞれの職場でやりがいを感じていただいているか、あるいは、勿論、悩みだとか問題を抱えながらも何とか頑張っていこう、と思いつまらせるだけの最低限の要素が私どものものづくりの現場にはあるのではないかなと思っています。

それで、最後に20歳代で、現在、バリバリ頑張っている人達の声、期待の若手ですね、**彼らの声を3例程紹介**させて頂きたいと思います。

**「私は商業高校出身で、そのため入社当初は不安で一杯でした。しかし、ここで負けれないと頑張**り、**今では研修センターで指導員をするまでになりました」**。これは入社5年目ぐらいの青年ですね。で、私どもでは毎年新入生を迎えまして、8月末まで5カ月近く研修センターで研修を行います。数年前には、自分がそこで研修を受けたわけなんですけれども、今では、そこで自分が指導員としてやっているということに誇りを持ってくれているんだと思います。

その次の方なのですが、**「入社時から一貫して“ブロック溶接”をしています。何をやってもうまくいかないときがありましたが、基本に戻ること**で立ち直ってきました。**やはり基本を疎かにするとうまくいかないですね**」。これを書いてくれた彼は、今年の岡山県の溶接の技能検定で優勝しました。近いうちに全国大会に行く予定にしております。

もう一つ、**「私はディーゼルエンジンの組立てをしています。大きいものでは重さ2,000トン、高さ13メートルにもなります。また、完成したエンジンの納入先の企業に据えつけにも行きます。海外への出張もあり、思ってもいなかった経験をさせてもらっています」**というようなことですね。勿論、こういう場でご紹介させて頂くので余り悪いのは無いわけないんですけど、勇気づけられるような若者の声を紹介させて頂きました。

### <職人塾の存在意義>

最後なんですけれども、この「**職人塾の存在意義というのは何か**」なと考えますと、

①個々の企業、それぞれが単独ではできない技術、技能の伝承を共同で行う場をつくりましょう  
と言うこと

②これから自分の進む道、将来どういう仕事につこうかということを考えている若者に“ものづくりの魅力”を知ってもらうこと。こういう世界もあるんですよということを提供する場と、

この2つであろうかと思います。

まさに、玉野市の現状、将来のことに非常にマッチした目的であろうかと思います。

ただ、これを運営する方々が大変な労力とエネルギーを使われているのを私も横で拝見させて頂いて大変だなという思いはありますけれども、粘り強く続けていって頂けたらと思います。この職人塾の活動を通じまして、少しでも多くの若者が玉野市に定着してくれば嬉しいなという思いであります。

### ○コーディネーター（岡本教授）

はい、うまくまとめていたと思います。三井造船という会社が如何に素晴らしいかというのがよく解りました。最後には「職人塾」というものが非常に貢献していると、でも運営が非常に大変であろうと。その大変なのをやられているのが、次の三宅さんでございまして、大変さを含めて紹介をして頂きたいと思います。

## ○パネリスト（三宅 実行委員長）

私は「職人塾」の実行委員長という大役を仰せつかりまして、3年目に入りました。

私は、最前線で取り組んでいる講師、それから指導員、幹事の方々に一度目を向けまして、テーマと少し外れますが、その方からアンケートを戴きましたので、その中から抜粋して皆さんへ報告をさせて頂ければと思います。

### ＜職人塾の背景＞

玉野市の基幹産業というのは、先程三井造船の部長の方からお話がありましたように、三井造船を頂点としまして、造船業として栄え、潤った歴史があり「造船のまち」として発展したところです。

しかしながら、経済界が大きく様変わりをして参りまして、高度経済成長期ではあるものの、少子高齢化という実情が目前にぶら下がって参りました。更に造船業は、皆さんもご存じのように“3K”という最悪の業種のイメージから、なかなか脱却が難しく、若い方々は、製造業から第三次産業の方へ目を向けていくような傾向が大いにあります。

また一方、地場産業の製造業の現状は、この長年培った高度な技術・技能という、俗に「職人さん」という方々が“団塊の世代”を迎え、大量に退職の時期にさしかかっています。この状況を放置すれば、企業に及ぼす影響と損失は、計り知れない大きな打撃を被ることは明らかです。

この様な状況を鑑み、地場産業の製造業がいかに対応するか、我々は、何をしなければならないかということなんです。

そこで、公官庁始め、関係各企業に協力ご支援を仰ぎ「職人塾」を創設致しました。

### ＜講師、指導員、幹事等の方々の現場の声＞

今回、「職人塾」の最前線で取り組んで頂いています「溶接・鉄工」、「機械加工」、「設計」の3分科会の「講師、指導員、幹事等の方々の現場の声」を皆さんに、知って頂きたく、「私のテーマ」として取り上げてみました。

最前線で取り組んで頂いている方々の“アンケート”だけですが、気持ちを少しでも伝えることが出来れば幸いに存じます。尚、このアンケートは、過年度を基にご協力頂いたものです。

（アンケートで4つの項目につき、質問をさせて頂いております。）

最初に、1：「現場で苦勞されたことは何ですか？」と尋ねてみました。

口を揃えて言われるのが、「研修、講座の活動には苦勞はありませんが、時間の捻出と本来の会社での業務の低下が無視できない。」と。ある面では引け目を感じられた方が多くおられたというようなアンケート結果が出てまいりました。

設計分科会では、「応募した受講生、特にCAD研修では定員より多い応募があったので、設備と授業の理解度等の関係もあり、受講生の選定に苦勞した」。



それから「**実技の研修等にも沢山の応募があったので、先生方に応援をして頂く為に関係会社を走り回って、手伝いをお願いした。**」という苦勞があったそうです。

また、「**講義の教材、材料、並びに準備に苦慮しましたよ。**」というようなお話も多く書かれておられました。

でも最後には、「**どちらかといいますと、後に疲れを持たない うれしいような苦勞ですよ。**」というふうに書いてありましたのは、非常にうれしく、感謝をしているところです。

そして次に、**2：「現場 及び ソフト面で不足しているということ」**を尋ねてみました。

設計分科会では、「**講師の不足、三井のOBとか他の団体の協力が必要**」。

溶接鉄工につきましては、「**講師として経験不足の点もあったと思うが、講師、助手が一となり指導方針について打ち合わせが必要**」。と言う回答がありました。

これは全般的なことですが、「**あらゆる面で講師をお願いしているが、それぞれ先生方には十分な講師経験がありませんので、その打ち合わせがもう少し欲しかった。**」というような回答がございました。

次に、**3：「講習、研修、実習において感激したこと」**と尋ねてみました。

各分科会とも「**受講生が全員厳しい目つきで、懸命に練習、実習している姿、それに無事に全課程を修了し、喜んでいる受講生を見るとき、これは世話役冥利に尽きる。**」というふうに回答しております。

次に、**4：「今後もこの職人塾を継続し、一層発展させるには、何が必要か？」**と尋ねてみました。

「**職人塾を継続するには、玉野市、及び、県、国、その他の団体から頂いています経費の確保です。また、場所、設備の充実です。**」という意見が多く回答されております。

その他に、「**職人塾の事務的業務につきまして、玉野産業振興公社、及び、市の体制を充実したものにしてほしい。**」という多くの回答もあり、また、「**造船城下町である以上、これからも続けるべき。**」という声が非常に多く聞かれました。

最後になりますが、「職人塾」として、玉野の産業振興になる事業展開を図り、企業のボランティアに期待するものではなく、「職人塾」を自主的に運営ができる組織に改革しなければならない。

“**人・金・場所・設備、これらがしっかり確保されることが、地元産業の発展と活性化に繋がるものだと思います**”。

シンポジウムのテーマであります「**明日のものづくりに若者が何を求めているか**」とは別のものになりましたが、

「**職人塾の塾生**」は「**どこで働く、のではなく、どう働くか**」を真剣に講師の先生から学んでおります。その環境づくりが、我々実行委員会に課せられた課題であると思います。

若者が“**ものづくりに興味を持ち、技術・技能を先輩から受け継ぎ、ものをつくる喜び**”こそが明日の玉野の産業に発展があるのではないのでしょうか。

講師の方々には、いろいろな悩みもありませんが、受講生の顔を見てよかった、ということがこのアンケートで聞かれたことを私はありがたく思っております。簡単でございますけれども、私の報告とさせていただきます。

## ○コーディネーター（岡本教授）

はい、ありがとうございました。

職人塾というのは非常に大変だなということがよく解ったわけですが、講師の先生方、非常にご苦勞なさったんじゃないかと思えます。また、お世話されてる三宅さんもお苦勞されたんじゃないかと思えます。大分職人塾基盤ができてきたというような感じを得ました。

それでは、“玉野は造船のまち” といふか、基幹産業は、造船業ということですけども、国の立場でもっと広く、玉野も含めたいろんな地域の造船業、更には、運輸というものの視点からご意見を頂きたいと思えます。勢井さん、お願いいたします。

## ○パネリスト（勢井 次長）

只今、ご紹介いただきました中国運輸局岡山運輸支局次長の勢井でございます。日頃から運輸行政でご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それでは、今回の「あすのものづくりに若者が何を求めているか」というテーマについてお話したいと思います。それから、テーマに関連する「職人塾」についてお話したいと思います。

### <若者が何を求めているか、船員の現状>

まず1点目、“若者が何を求めているか”ということなんですが、うちの職員、ちょっと、一例として紹介させていただきます。

今の若者が何を考えているのかと、私自身も想像つかない歳になったんですが、藤井から通勤している職員、自転車歩行専用道路ですかね、あそこを歩いて通勤している職員の話なんですが、宇野地区の自転車道にてよく目にするのが、通学の高校生の皆さん、女子も男子も、一般道との交差点をフルスピードで突っ込んでいきます。当然、自動車からはブラインドの位置から飛び出してくるので、お互い“どっきり！びっくり！”です。こういった光景が日常茶飯事で、自転車側が“赤点滅”、自動車側は“黄色点滅”、もし事故が起きたら、自動車の運転手さんに皆さんも同情すると思えます。

このように、若い方ですがね、**危険予知能力が完璧に欠落**して、何も考えてないような行動が伺えると思うんです。**次に起こる展開をイメージすることが全く出来ないのです。**

同じように、**卒業後の自分の姿もイメージできないと思うのです。**大学に進んでも、この時期にイメージ出来ない人間は、4年経っても進歩がないのではないかと思います。

それで、「若者は何を求めているのか」ということで、うちの役所にも船員さんに特化した安定所業務を昔からやっていますが、担当者の話では、最近求職活動でみえる若い方が数名あったそうです。それで、船員という職業のあること自体が社会的に余り認知されたい時代ですが、こういう若い方が職業の選択肢の一つに船員を考え、相談に来てくれたこと自体に感謝して、いろいろ相談には乗ったんですが、片方では、船員不足をかなり訴えながらも即座に、素人の若者を受け入れてくれる企業といふか船は非常に少なく、今は、外航船も、内航船も、どの船も最低限必要な人数で働いていますから、残念ながら、そういう船乗りになりたいという方が来られても教育できる環境が整ってないということですね。



それで、船乗りになりたかったらみんなおいでっていう「船員塾」、こういう職人塾みたいな感じの「船員塾」というのがあればいいんですが、内航船員の教育施設には「海技短期大学校」というのがあって、これが“高卒資格条件”なんです。それで、うちの船員職業安定所に来る子は高校中退の方の多くて、高校生活になじめずに辞めた子ばかりなんです。

それで、中卒で入れる「海上技術学校(3年制)」もありますが、学校側の本音として20歳過ぎたような人を15歳から16歳頃の連中に混ぜては多分くれないと思います。現実として、船員として船に乗るには資格を取って船に乗りたと思って、残念ながらここでも、またはじかれるでしょうというような現実があるわけです。

この様な状況で、造船関連の製造業よりも、若者にとって船員さんになりたいといった場合、かなりハードルが高くて、求人側と求職側のギャップも大きいものがあります。

こういう状況を目前にして、私らが残念ながら“船員不足のキャンペーン”をやらなきゃならないという現実、まさに“ミッシング リンク(失われた鎖)”で、只、このままずっと手をこまねいて待っていると「内航船員の絶滅」という船に乗る方がいっしょらなくなるというような、そういう事態にも繋がると危惧しています。

それで、そういうのを避けるためには、やはりいろいろ手を尽くしているんですが、それで、若い人で船乗りを辞めて、そしてまた、求職に来られる方にアンケートの形で、辞めた理由を聞くと、「携帯電話が圏外になってメールができない!」という理由で降りてきたという方がいるとのこと。一寸そういう若い人は考えて頂きたいなと思います。

今の日本を考えてみると、荷物を出す人、運ぶ人、そのまた船をつくる人、昔はみんな汗をかくてバランスよく回っていたはずなんですけど、どういうことでこういうふうになったんですかね。

若い方でも、先ほどお話したように、非常に船に興味があって、それでどうしても海上で働きたい、船に乗りたいという方、そういう若い人がいれば、もちはもち屋で、丁寧に進路相談はうちの方で致しますので、その時はこちらの方に足を運んで頂きたいと思います。

それから、「職人塾」の件なんですけど、「立ち上げから3年目、盤石な基礎が構築できたか」ということで、この職人塾は、頭初の目的は“3年の実績を積みば厚生労働省の認定を受け補助金”がもらえるという算段でスタートしたみたいなんですけど、お金の面でこれから心配ないかといえば、あくまで補助でと云うと、全額 賄えるようなものではありません。相変わらず、お金と知恵を持ち寄って汗をかかないといけないようです。

#### <因島、今治の場合>

我々、運輸局関連で「日本中小型造船工業会」の技術伝承の為の訓練施設である「地域研修センター」というのがありますが、これは因島、今治などで行われてます。だけれども、これも金銭の補助ではなく、教材等の提供があるだけで、お金は、市、企業の持ち寄りにそれぞれの地方自治体の“認定訓練助成、キャリア形成助成など”の助成金と、参加する生徒(会社)の高額な負担で運営しているということです。こう言った訓練施設を、もし、玉野市で本当にやろうとすれば、既存の他施設と競合して、西日本地区から広く生徒が集まるか、また、高額な授業料に応えられる授業が出来るかを検討することが必要と思う。

#### <職人塾>

玉野市の「職人塾」、この町は“ものづくりの技術”によって栄えた90年の歴史があって、技術を持った素晴らしい財産ともいえるOBさん達がおられて、その技術を次の世代の「若者達」に伝承し、また、高校進学時には、気付かずにいた「ものづくり」のよろこびを見出すチャンスを与えて、若者の地元就職を促し、地域の活性化を目的にした“まちおこし”ではないかと思う。

昨年、この場で三宅委員長も発言されたと思うんですが、「全国都市再生モデル事業の実証」で、2006年ですかね、600万の予算で第1回の職人塾が立ち上がりましたが、その内の200万をコンサルタントに持っていかれ、実質400万の規模で実施されたということでした。これからも最低、「市と実行委員会」が200万円ずつでやっていけるということでした。

確かに、この事業はそれ以外に数字にあらわれないスタッフやOBの手弁当と汗も含まれており、塾に関わる皆さんに支えられ、最もピュアなまちおこしが出来ていると思います。企業のトップであれば、まず、運営に必要な予算の確保を第一に考えると思いますが、そこには、おそらくボランティアなんていう項目はないと思います。しかし、職人塾の運営は、予算とボランティアの適度なバランスが重要なような気がします。お金とボランティアどちらが欠けても、職人塾は成り立たないのではないのでしょうか。

なぜ、「中造工方式の技術伝承の地域研修センター」がここでは立ち上げられないかということとを、私の私見的な考察ですが、次のことだと思います。

それで、将来的な職人塾なんですけど、三井さんには申し訳ないんですが、職人塾はこの玉野市に関して、どこを切っても金太郎、上から下まで三井関連、大部分が三井ファミリーで行われているというところへ、他の(ライバル)企業の方が高いお金を払って生徒を送り込んで来ないだろうと思うからです。

#### <玉野の特色は>

他には無い玉野市の特色はということではいろいろあるわけなんですけど、

機械加工とか、溶接・鉄工とか、そしてここだけの設計、これら三本柱に加えて、高校生、しかも商業高校の生徒さん相手に造船所見学とか、溶接実習とか、模型作製などの“インターンシップ”と、今年から単位取得が可能になった機械加工、最後段階では実際の企業においての実習体験など、数え切れない程カリキュラムは、全国に例を見ない玉野の独自の企画です。

また、講師の先生方ですが、すばらしい技術・技能を持ったOBさんと孫のような高校生達とのにわか師弟関係はほほ笑ましく、また、反省会等で一番ホットなのがこのOBさん達でして、来年はこうした方がいいのではと熱く語ってくれます。こういう環境を見ると、職人塾は是非とも残して頂きたいんです。

#### <ネーミングライツ(命名権)>

先日、久しぶりに高松の町に行ったんですが、驚いたのはフェリーを降りて、驚いたのですが、“県民ホールが穴吹ホール”に、それから“オーリーブスタジアムといういい名前だったんですが、それがサーパススタジアム”という球場に変わっていました。

所謂「ネーミングライツ(命名権)」、名前だけレンタルするみたいで、今は全国的に結構いろんなプロ野球の球場とか、それからサッカーの競技場なんかでもそういうのを使われているみたいです。

また、お隣のサノヤスさんは、水島地区ですがね、サノヤスさんでは“船をつくれと言われた、絶対本気のサノヤス・ヒシノ明昌“といういいTV CMつくっています。大企業が乱立する水島地区ではリクルートのためのCMが必要とのこと。玉野はそういう苦勞しなくていいと思うんですが。

だから、一つ提案なんですけど、職人塾をやるとしたら、来年は“パートⅣ”という訳には？

“4”と云う数字は良くないでしょうから、やはり“3”でしょう。

それで三井さん如何でしょうか。

先ほど“ネーミングライツ”で言ったように、来年からは「三井職人塾」というような、そういう発想でやったら如何でしょうか。

#### ○コーディネーター(岡本教授)

何か結論は先に出たようですが。

玉野市における「職人塾の方向性」という、どうあるべきなのかというような問いかけもございましたので、丁度、次は市長の黒田市長にお願いしたいと思っておりますけど、そういったことも含めてお願いいたします。

## ○パネリスト（黒田 市長）

黒田でございます。

三宅実行委員長をはじめ、今日ご臨席頂きました皆さんには、「職人塾」に対しまして、物心両面でご尽力を頂いておりますことを、まずお礼を申し上げさせていただきます。

パネリストの皆さんから様々な話が出ておりますが、私からも簡単にお話をさせていただきます。

せっかくの機会ですので、皆さんにも認識を頂きたいのですが、玉野市の人口がここ30年くらい減り続けているというのは皆さんご存じだと思います。岡山県下でいうと、岡山市と倉敷市以外は同じような傾向にあります。

### <市内人口について>

平成の始め頃から現在までの推移を見てみますと、ゼロ歳から19歳、いわゆる、20歳を迎えるまでの人口は、半分になりました。平成の始め頃は2万人位でしたが、今は1万人強しかいないんですね。その原因は何かというと、一つは御多分にもれず少子・高齢化でありまして、現在、玉野市で生まれる赤ちゃんは年間450人前後なんですね。その反対にお亡くなりになる方はそれをはるかに超えていますから、自然に減っていく状態にはあるわけですが、それは別として、若年者人口がどうして減るんだろうかというのも、簡単に市の方で分析してみました。

要は、就職や進学で玉野市を離れた若者達が玉野に帰って来ていないという現実があるのは確かです。その理由はいろいろとあるようではございますけれども、それを食い止めないとい人口は増えていかないという認識を玉野市も持っております。

### <活性化対策>

そんな中で「市では何ができるんだ。」という、「マリン玉野産業フェア」や「たまのマッチングプラザ」を開催しておりまして、「玉野には働く場（会社）がこれだけあるんだ」というメニューを紹介していくのが、市として出来る最大限のことだろうと思っています。

人間は誰しもそうですけれども、食事でバイキングに行った時、選ぶものが沢山ある店と少ししかない店だったらどっちがいいかと言ったら、沢山ある方が良いに越したことは無いと思います。ですから、市内企業のうまい紹介の仕方を我々が行っていく必要があるのかなと思います。

もう一つは、現在、「チャレンジワーク」と言っても、中学生がいろんな企業へお邪魔して就業体験をさせて頂いていますが、もう一つ進んで、幼い頃から父ちゃんの背中を見せていく必要があるのかなというふうに思っています。子供達と話をしていると、「うちのお父ちゃんは船をつくっています。」と言うから、「僕、仕事見たことあるの？」と尋ねたら、「いや、よくわからないけど、お父ちゃんが船を作っていると言うから、作っているのだろう。」みたいな状況です。また、先程の船員の話



もそうですが、「港フェスティバル」に来た海王丸の船長が 言っていました。「小さい頃に海王丸に乗せるような体験でもしないと船員になる人がいない。」と。同様に小さい頃に父親の汗を流している姿を見せていくとか、そういう姿を植えつけていかないといけないのかなということも思っておりますので、教育委員会などと相談しながら進めていかなくてはいけないのかなと思っています。

また、企業の皆さんには大変な努力を頂いておりますが、あともう一步進めて頂きたいのは、各企業の持てる独特の技術のような、要は外部へPRできるものをもう一味加えて頂きたいと思います。そして我々がそれにエッセンスを加えることでメニューをより充実させることができるのかなと思っています。

### <協働の市政 と 職人塾>

それから、私は常々、皆様方に **“協働の市政”** と言っていますが、**職人塾は協働の最たる例だと思っておりますので、これからもずっと続けたいと思っております。そして、より協働を進めるためには“本音でやっけていかないといけない”** と思います。

「職人塾」が良いと思うのは、実行委員長が本音で生きられている方だからだと思います。去年、この会場におられた人は知っていると思いますが、委員長は **「どうしても職人塾という事業は必要だから、悪いけど市長200万用意してくれ、あとはわしらで何とかするから。」** と言われました。皆さんご存じだと思いますが、私は壇上に上がれば「金が無い、金が無い」と言っています。しかし、委員長にそこまで言われたら、200万円を何とかしないといけないということになるんですね。

それでは、何が考えられるかなと、今日、同席している産業振興部長と市役所で知恵を絞りました。先程話のあった厚生労働省の認定訓練は3年の実績がないから対象とならない。それなら、玉野競輪があるから日本自転車振興会（JKA）の補助事業を当てようと言うことになり、2人で4回～5回東京へ行きました。そのうち4回までは「自転車振興会のメニューでは難しいからダメだ。」と断られました。そこで「ダメだと言われても困る。私は三宅さんと約束したのだから。」と2人でお願したら、何とかなるもので、こうやって事業がスタートしているわけです。

また、お金以外の部分でも **“本音でやりとり”** して、**「市ができること」、あるいは「企業の方にしてもらおうこと」、「お互いに手を携えてやること」** をそれぞれやっけていかないと、**玉野の職人塾** といふか、**玉野の誇りである技術の伝承はできないと思っておりますから、ここから先も、本音の議論をして頂きたいと思っております。**

### <玉野市のブランド化>

終わりになりますが、我々が本当に一番にやらなくてはいけないのは、玉野市という町をいろんな人にわかってもらうような、**「玉野に行ってみたいな、玉野で働いてみたいな。」** というふうにならないといけないと思っています。「じゃあ黒田さん、玉野市を何で売の？」と言われて、「何も売ものはないけど、とりあえずがむしゃらに玉野市という名前を有名にして行くんだ。」という気持ちでいます。

そうすることで、ある意味職人塾がこれから伸びていく一助になるし、求人を増やしていく一助にもなるのかなと思っていますので、皆さんにも玉野の宣伝にご協力をいただきますようお願いを申し上げまして、私の発言を終わります。

### ○コーディネーター（岡本教授）

皆さん方が時間を守ってくれましたので、大体予定どおりで終わっております。長い人、短い人若干ありましたが、トータルでは、ほぼ予定通りと思います。ただ、始まった時間がちょっと遅いので、今からの時間は余りとれないと思います。

### <玉野市ブランド>

最後に黒田市長が、玉野市のことを解ってもらいたいということを今おっしゃっておいりましたけども、岡山県内で玉野市のこと知っている人は、そう居ないんじゃないかなど。

これは失礼かも分りませんですけども、そういった意味では、“玉野ブランドづくり”というのがちょっと遅れているかなど。

全国的に玉野市というのは、昔は“宇高連絡船”が通っておいりましたから、宇高連絡船の話をすれば、あそこが玉野かと、宇野というよりも玉野かというのはその後分って来たような状況でないかと思えます。

### <ものづくり>

“ものづくり”というのは、先程、野菜をつくるのもというような話でございましたけども、いろんな意味でのものづくりというのがあると思えますし、玉野の場合には、三井造船という基幹産業を中心としたものづくりと。三井造船は有名ですけども、玉野市はというような形で、玉野市ブランド、更には、それをいかに伝えるかという、これが大事なことになるんじゃないかと思えます。

そういったことで、先ほど来、6名のパネリストの皆さん方の話を聞いておまして、個人的にはいろんなことが言いたいわけですけども、一番おもしろかったのが「若者が何を求めるか」のタイトルに対して、“が”を“に”の一文字変更しまして、「若者に何を求めるか」と。これは表裏一体でございまして。

### <求職者側>

若者が求めるというのは、先程の内田さんも述べられたように、高校生が、玉野で就職したいけど働く場所がない。できたら最初のころは事務系を希望しておるけども、技術系を希望するようになったと。だけれども、働く場所がないから、県内だけでも、玉野市からずっと離れて行くというような傾向があるんじゃないかと。

### <求人側>

反対に、「若者に何を求めるか」というのは、先程の水原さんの基調講演じゃないですけども、やはり“若者”、“日本人”、“特異性”、これをもっと、もっと、生かしてもらいたいということじゃないかと思えます。

### <定着率について>

そういったことから、三井造船は非常に定着率がいいというのが印象としては残ったわけですけど、この辺りから、ちょっと話を広げていきたいと思えます。

原さんの方で、いきなり何処へ行くかわかりませんので、定着率ですね、我々労働市場、特定空間として職業安定所というらえ方をしておりますけども、労働市場として定着率というのが、一般的には非常に辞める人が多いと。特に大学卒業とか、新卒とか、辞める人が多いんですけども、先ほど三井造船が100人で1人ですかね。

### ○パネリスト（仲田部長）

そうです。

### ○コーディネーター（岡本教授）

というような形の離職者なんですけども、このあたり、数字を聞いてどう思われますか。

### ○パネリスト（原 所長）

そうですね、難しい問題ですけども、私の方では定着率とかというのは、それぞれの企業さんが把握されていることでありまして、私どもでは把握していない率です。

しかしながら**定着率がいいと言うことは**、直接的には判りませんが、何ていうんですかね、**優秀な会社、活力ある会社**と思います。玉野市内、結構そういうところ多いんじゃないかとは思っておりますけども。

### ○コーディネーター（岡本教授）

市長ね！玉野市の中の三井造船で玉野事業所での採用が、60名、70名とか、80名とかという話をされていましたが、非常に優良な企業が存在して、基幹産業として在るわけですけども、また、離職率が非常に低いとの話でしたが、これは玉野市の魅力なのか、三井造船の魅力なのか、どちらでしょうか。

### ○パネリスト（黒田市長）

それは間違いなく三井造船の魅力だと思いますが、先程、仲田総務部長も言われていたように、親に言われたからとか、あるいは、学校の先生に言われたから、ここへ就職しましたというケースがかなりあると思うんですね。

そんな中で、企業のイメージを持って就職していくんですね、造船関連の企業だろうみたいな感じで。だから、逆に定着率が良いのは、若者の就職時のイメージを上回るものが、三井造船にあるのではないかと思います。言い換えると、違う意味でのミスマッチができていのかという感じはします。これはマイナスの要素ではないですので、先程言いました企業PRの材料にはなりますよね。

### ○コーディネーター（岡本教授）

そういった良いところを、玉野市にはこういった会社があるという、良いところをもっともっとアピールする、PRしていくという必要があるんじゃないかと思えますね。

### <就職先を決める最終的な決め手>

それで、また関連しますけども、内田さんの高校では就職を決める、**就職先を決める最終的な決め手**というのは何でしょう。あるいは、最終的に誰の助言を一番聞いて決めるんでしょうか。

### ○パネリスト（内田校長）

まず、決める時期は、ちょうど、今頃です。

**“保護者の方と本人と担任とで話し合いをして、求人票を見ながらこの会社にしましょう”**ということとで大体決まってきます。

その前、家に求人票等持って帰って、この会社はこうだから ああだから、という話をしているはず。それと、自分の思いはこうだからということで話をしながら徐々に決まってきます。

それで、先程も言いましたように、子どもが非常に少なくなり、保護者は、できれば玉野市内に就職させたいという希望がすごくあります。市内のいろんな企業から、求人を頂き ありがたいことだと思っております。

それから、先ほど離職率の話で、三井造船さんの方 非常に良いということですけども、所謂、玉野市内での離職の率は 私も低いと思っています。他の学校の方と話をしてみても、本校の場合は 離職率が低いようです。そして尚且つ、1次の選考で殆んど受かってしまうというような状況です。これは、

非常に有難いと思っています。

### ○コーディネーター（岡本教授）：

私は離職率が低い、これは確かに三井造船の魅力であると同時に、他に選択できる職場が少ないということではないでしょうか。私はそう思いますがね。

例えば、先ほど水原さんの話の中で、中国は多いですね。どっどつ、どっどつ、変わっていきますからね。

給料が良かったら直ぐに変わっていくという。だから、そう云った変われる職場がないということも言えるわけですし、高校として紹介する場合に、メニューが少ないということで苦勞されてるんじゃないかと思う。

併せて、ちょっと、内田さんに聞きたいんですけども、就職の場合の設定要因と進学の場合と違うと思うんですけど、その辺り何か感じるところございますか。

### <進路決める要因>

### ○パネリスト（内田校長）

“就職先を決める要因”、“進学先を決める要因”、これはやはり**“本人の適性と興味、関心”**、**これに尽きるのではないかな!**と思います。それから、あとは**“将来自分はどういうことになるのか”**というような気持ちのある子が徐々に増えてきています。

“私はこうしたい、あるいは、こうなりたいという子”がお陰様で徐々に増えてきています。今までは、どちらかというともあこのようなものかな、というような形でやっていましたが、私は、こういう仕事をしたいとか、あるいは、こうなりたいとか、という子供が出てきています。

ただ、先程もありましたが、**女子の求人、採用数**がこの地区は非常に少ないです。これでは、女子が逃げているということを意味します。これは、将来不安な材料の一つではないかなと私は思っています。

それともう一点、1、2年生でアンケートを採ってみますと、どうも1、2年生は、技能とか製造に、余り興味を示さないようになってきています。何故、このような傾向になっているかを現在関係者と話をしています。私、昭和57年に玉野商業に初めて赴任し、今回2回目ですけども、保護者の関係、あの時の造船不況の関係等、そういうものもあるのかと思ったりもしています。

### <瀬戸大橋時代前後>

### ○コーディネーター（岡本教授）：

たまたま、昭和57年というのが出ましたけども、この57年というのが、当然ですけども、瀬戸大橋がついてない時代ですね。それ以後、**瀬戸大橋、昭和63年につきました**、それ以後ずっと玉野市は人口減っていますよね。これは玉野市だけじゃないですけども。

その中で、最近の玉野市というのは非常に町も綺麗になっておりますし、道路も整備されておりますし、トータルよくなっておると思うんですけども。

そういう中で三宅さんに聞きたいんですけども、職人塾も含めて、企業の多様性、多様化というものが、たまたま“ゴリオシネット”というのが出ましたけども、瀬戸大橋がつく前後、現在でもいいんですけど、何か変わってきておるでしょうか。

### ○パネリスト（三宅委員長）

私ども「職人塾」というのではなくて一企業として考えますと、ここ四、五年非常に造船部門が、

沸いておりますので、ある部分では、**今、足元が固まってきたような時代**だと思います。 **その前の時代**は、もう大不況でございまして、「人を採用する」のではなくて、「人を如何に減しながら、（現状維持を続けていきながら）企業を支えていかなければならないか」という時期が長く続いたわけです。ですから、逆に言うと、あの頃は「人を採用する」とか「人を採用しない」とかではなくて、「**自分の命の方が大事だよ**」というようなことでした。

あらためて、ここ四、五年で、今回、3年目の迎える「職人塾」なんですが、やはり、もっと我々が長い目で造船産業を、もう少し気をつけて見れば良かったのではないかなというのが、今振り返って思うことです。

ですから、水原さんが講演をされておりました、2017年の造船業界の増加見通しとか、がありましたので、体力的に見れば、（そのような需要状況が根底にありますので）もっと我々が自信持った形で、「職人塾」を続けていかなければならないということを、今日改めて感じたというのが事実です。

## <多様性>

### ○コーディネーター（岡本教授）

私は**多様性が知りたい**など思ったんですけども、多様性が玉野市の場合には そう見られてないんじゃないかというような感じが致します。

一般的に産業構造、基幹産業が単一であればある程 いろんな景気の影響を受けやすいということで人口が増えにくい要素の一つになっておりますけども。 そういう中でも三井造船、あるいは、そのグループというものが頑張ってる中で、それなりの活力はあると思いますけど、多様性のある複合的な基幹産業が あればあるほど産業というものは、しっかりしておりますし、地域の活性化に繋がっていくんじゃないかと思えます。

その辺りはこれは職人塾の実行委員長以上に“商工会議所の会頭”として頑張って頂きたいと思えます。

## <職人塾>

ということで、基幹産業である三井造船に対する期待は非常に大きいわけですけども、先程、勢井さんの方からも“三井職人塾”というような話も出ておりましたけど、その辺り、如何でしょうか、仲田さん。

### ○パネリスト（仲田部長）

先程の定着率の話に関連しまして、三井造船がいい会社だからとか、いや、それだけでもないんじゃないか、他にいくところがないんじゃないか、とか出されましたが、実は私自身も後者でないかなと思っております。あるいは、元々、玉野に居たいという方が 離れられないから 辞められない というような ところもあるんじゃないかと思えます。

で、何を申し上げたいかと言いますと、「職人塾」の活動を通じまして、皆さんに一生懸命やって頂いています。別の会議の場でも同じこと申し上げたことがありますけれども、この職人塾、実は非常に申しわけないというような思いがしているんですが、何かといいますと、それぞれ私どもも、協力会社の皆さんも、地元の会社の皆さんも、相当時間かけて準備されて講師をされて、土曜日、日曜日と、相当時間割かれております。

それで、研修生として、商業高校の方、あるいは、地元の若い方の中で興味を持たれた何人かを掘り起こされてると思えます。

その結果、何処へ就職かという、あっ、船づくり おもしろそうだな、三井造船へ就職しようという

ことで、(皆さん一生懸命汗かかっているのに) 結果として私どもの方を受験される。で、私ども三井造船だけのことを考えればそれで あり難いんですけども。私どもとすれば、地元の企業、協力して頂いている企業の皆様の足腰が強くなる、そのために必要な人材を確保できる、それでもって全体として強くなっていくというのが望ましことだと思いますし、町にとってもいいのではないかなと思っています。

今の遣り方であれば、一生懸命やっているんだけど、せっかく興味持ってくれた人が みんな三井造船へ行っちゃう というような思いが膨らんできて、この運営に ぎすぎすするような事態にならなければいいなという思いを持っているわけです。

そこで、どうするかということなんですけれども、私は最終的には、今のような形を発展させて、例えば、備南高校みたいなところで、(工業科がないというようなことがいわれていますけれども、市にはないですけども) 秋口辺りに**“備南高校市民一般公開講座”**というような形で、この職人塾が一体になって運営して、それで高校生も参加して単位が取得できるし、一般の市民の方、あるいは、企業に入った新人若手の方もその講座を受けることが出来るようにする。

あるいは、商業高校の人でも“ものづくりに興味”があったら、公開講座ですから、受けることができるというような形にする。そうすることによって、それを更に発展的に運営することによって備南高校のステータスみたいなものが向上して行って、毎年何十人ものが向上して行って、毎年何十人ものがそこから輩出されるということになれば、何ぼ何でも三井造船が全部それを頂くというわけにはいかない。地元の会社の皆さんのところへも就職されるような場が増えていくんじゃないかと思っています。

そういうような形まで発展していけば、いいなというように思いを、実は持っております。

## ○コーディネーター (岡本教授)

前回、昨年ですね、先ほど市長言いましたように、200万円の話出ましたよね。

三井造船が中心となった「三井職人塾」というもの、しつこいですけども、玉野市の高校生を生産の方が求められて、市長としてはお金のことが、ちょっと触れられて、競輪の話が出まして、また、ちょっと振ってますよね、よそに。

その辺りを是非突っ込んでいかなければ何のためにやっているか分かりません。ただ、三井としては基幹産業であり、中心的な企業であり、「職人塾」というものが、関連会社を含めて、より効果を上げていくということになりますと、玉野市全体のレベルアップを図るためにも、もう一歩踏み込んだ形で職人塾というものを考えていくような、そういうような考えは今の段階ではないでしょうか。

## ○パネリスト (仲田部長)

先程の“三井職人塾”というのは オコガマシイカナ! という感じがしております。

私どもとすれば施設を有効に利用して頂くということについては、非常にフレキシブルに対応させて頂こうかなと思っておりますけれども、実際、私の冒頭の説明の中で申し上げましたように、以前は、新入社員が毎年二、三十人だったんですけど、ここ数年は七、八十名。4月から8月末まで、もう研修一本です。研修期間中は、現場の仕事は全然やりません。5カ月間通して研修しておりますので、“三井塾”とか“三井学校”というようなものは、それはそれで私ども独自の新入社員用にあるといえ、あるわけですね。

それとは“別に三井職人塾”ということなので……、申し上げたいのは、皆様個々の会社単独では、とてもできるものじゃないが、みんなで協力し合えばできるんじゃないのというような形にしてほしいなというように思っています。

こちらばっかりに頼ったり、何でもかんでも、すぐに三井造船さん! ここは頼みますよといったら、また、三井造船にしか就職したくない! というような子を増やしちゃいますんで。そうでなくて、まち

全体、市の足腰を強める為には、私たちはお手伝いをします。皆さんの知恵も出して頂きたいと思えます。

### ○コーディネーター（岡本教授）

ありがとうございます。

今の発言は、それは限界じゃないかと思えます。

### <うまく技術を継承しておるといふ事例>

勢井さん、全国いろいろ行かれたんじゃないかと思うんですけども、運輸関係、本日は造船というのがキーワードになっていますけど、運輸関係の何らかの企業、産業を中心としてうまく技術を継承しておるといふ事例はございませんでしょうか。

### ○パネリスト（勢井次長）

余りそういう事例は、今のところは、こういうふうな職人塾とか、それから先程紹介したようなところですか、“今治と、因島技術センター”ですかね、そういうところは今やっている最中なんで、今のところはそういう事例っていうのは、国の関係では私の知っている限りではとても少ないですね。

### ○コーディネーター（岡本教授）

今、お聞きしましたのは、“これからの日本というものは、ものづくりというものが非常に重要視される時代になってくる”んじゃないかと思えます。

その為には、技術あるいは技能といったものの伝承をいかにスムーズになさしめるかという。これが途中で途切れたら、先程の話じゃないですけども、世界の争いから、競争から置いていかれると危惧します。ましてや、身近にある**中国との競争に負けてしまうんじゃないか**と思えますので、この技術の伝承というのが非常に大事であるということは、それをやっている職人塾というものは非常に重要な役割を演じておるわけです。

### <行政の役割>

3年間やって基盤ができたとすれば、それを新たな形で展開しながら、更に継承を続けていくということには、やはり**行政の役割が非常に大きい**と思うんです。というようなところで、ぼちぼち時間も来ておりますので、**市長としてこの技術の伝承に関して、どういう意見をお持ちなのか、更には、それを基にして玉野市というものの方向性をどう舵取りしていくのか**ということについてお願いできればと思えます。

### ○パネリスト（黒田 市長）

僕は、今年で3回目になります、年度始めの「職人塾実行委員会」で申し上げたことがあるのですが、最初は団塊の世代が卒業するからこの技術を何とか伝承しないといけないということで、1～2年だけ実施すれば良いのかなと正直思っていました。

ところが、先程、三宅実行委員長からも言われたように、本当は“**以前から玉野にあってしかるべき施策だったんだ**”と思いはじめまして、先程のお金云々は別にしても、何とか知恵を絞って、皆さんのご理解を頂ければ、**職人塾は玉野の大事なメニューとして10年、20年と続けていくべきだと思っています。**

それが、玉野の魅力の一つになると思えます。玉野へ行って技術を身につけて、新たな新天地を見出される方もいるでしょうし、そういう“**技術が学べるまち**”というのは玉野の切り口になると思ってい



ますので、職人塾は重要な施策だと思っています。先程、仲田総務部長からありがたいお話を頂いたと思っていますが、今日は玉野商業の校長先生も来られていますけども、私が心配しているのは、子供が減っていますので、当然、高校の受験生も減っています。玉野市は玉野商業高校と玉野備南高校の2つの市立高校を持っています、生徒を確保していかないといけないですね。そんな中で、高校に魅力がないと、生徒は来ませんが、玉野商業は大変頑張って頂いていると思います。

同校は、「スーパー専門高校」の指定を受けていることもあり新聞紙上にも、今日も女子生徒が掲載されていましたが、その他にも全国大会で準優勝するなど、軌道に乗っているのかなと思っています。

そんな中“もう一つの玉野備南高校をどうするべきか”という議論がなされておりまして、関係の皆さんからは「工業科に変えたらどうか」という陳情も頂いています。

しかし、市役所内部でなかなか話がまとまらないのですが、仲田総務部長から御提案頂いたような一般の方も含めた**“備南高校の公開講座”**を開くことは一つの道なのかなと思っています。

本当にありがたいと思ったのは、実は昨年、何十年ぶりと言ったらオーバーになるかも知れませんが、備南高校の生徒さんが三井造船に就職しました。やはり、そういう良い流れをつくっていくことも高校の魅力の一つだと思っています。ただし、それには技術力や成績がついていないといけませんので、「備南高校も頑張っている」というイメージを我々がつくっていきたいと思います。

先程の公開講座の話ですが、持ち帰りまして、早速明日から仕組みづくりをしようかなと思っています。あっちへ行ったり、こっちへ行ったりではいけないのですが、「ものづくりに熱心なまち」と言いますか、「ものづくりなら玉野」みたいなイメージをつくっていく上でも、「職人塾」は重要な施策だと思っています。

私が未来永劫と言ったらおこがましい話になりますけど、造船関連を含めて、あらゆる皆さんが、**「ずっと玉野の伝統を継承していくんだ」**という取組に対する支援は、間違いなくしていきたいと思っています。

## <まとめ>

### ○コーディネーター（岡本教授）

お金の面でも、支援も含めて、支援をしていくという力強いお言葉を頂きました。

大体時間が参りましたが、今まで、いろんなパネラーの方の話を聞きまして、**玉野市のものづくり、非常に先が明るい**なという感じが致します。

会社を、あるいは、職人塾の委員長、或は、三井造船、あるいは、それを含む運輸局、あるいは、若者を提供しておる高等学校であり、更



には、職場に人を斡旋してくれている職業安定所、それぞれがうまく絡んでおりまして、これからも明るいんじゃないかなと思います。

ちょっと、まとめさせてもらいたいと思いますが、“**本日は基調講演が中国のこと**” でした。そこから、中国の話は、余り出ない“パネルディスカッション”になりましたけども、基調講演を捉えて発言された方がいないので、なかなか繋げにくいんですけども、私があえて、次々とひっつけておりますけども、“**中国を無視しては、もう何もやっていけないと思います**”。

冒頭、ちょっと申しましたように、オリンピックがどうあるかによって、世界が中国を見る見方、評価の仕方、これはもう完全に変わってきます。

開会式だけでころっと変わってきておりますし、旅行に行く、行かないは別にして、中国の見方が変わってきたようです。ということも中国の人も肌で感じております。

更に、沢山の留学生が世界各国にばら撒かれております。私の方の大学も、（私も担当しておりますけども）中国の文化、言語を世界に発信するというので「**孔子学院**」というのを立ち上げております。

私、たまたま、学部長でございますけども、今日も6時半位から中国語の講座がございます。現在、一般の方が50名ばかり受講しております。かなりレベルの高い方もいらっしゃいます。本当に“ピン・イン”のイロハから始まっている人もおりますけども、これが1年経ちましたら可也うまくなるんです。更に、若い学生さんの場合は、1年経ちますと非常に中国語うまく話せるようになっていきます。

日本人で、中国語ができる人が どんどん、どんどん、増えております。恐らく三井造船にも何十人か、何百人かいらっしゃるんじゃないかと思いますが、そういったことを考えましたら、日本語が話せる中国人以上に日中関係は深くなっていくと思います。

深くなっていけばいく程、今度は日本の企業が中国に依存し始めるんじゃないかということで、（うまいコミュニケーションの中で中国に進出していきますと）日本は、益々危なくなるんです。

これは“逆転の発想”じゃないですけど、うまく発想していけば、そこに日本が伸びる余地が残ってくるわけですけども、この辺は非常に微妙だと思います。

そういう国と国の関係だけでも、物事を考えていくというのはもう時代遅れよと。

ですから、もっとグローバルに考えていかなければいけない。それが今日の造船の話じゃなかったかなと思います。

造船の場合に、中国もそうだし韓国もそうだし日本もそうだと、この3国で世界の造船の80%のシェアですか、というものを考えると、一つの国がどうこうという問題じゃなくて、この3国、あるいは、アジアの極東部分が、この地域が共同して、（共同という言葉も沢山出ましたけど）共同してやっていく中で造船業の発展というものがあるんじゃないかなと思います。

そういうのが見えておりますので、玉野というものは、（私は希望として）もっと国際的な視点というものを強化していく必要があるんじゃないかと思います。

ですから、“**ものづくり**”におきましても、**国際的な視点で考えていく必要があるのかな**と思います。

そうすればするほど、若者は「職人塾」、あるいは、「ものづくり」、あるいは、「三井塾」に対して非常に関心を持ち始めるんじゃないかと思う。ということになりましたら、“技術が継承される”ということですから、**視野を広く持ちながら、それぞれの関係者が協力し合って、技術の伝承に精いっぱい力を注いでいきますと、玉野市というものは造船業以外の産業も発展していく**と思います。

**産業の多様化というものが地域の活性化につながります**から、高校生から見てもいろんな職場があ

る町ということで、玉野市で就職して、玉野市で一生を送りましょうというような社会になっていくんじゃないかなと思います。

そういうことで、この「職人塾」というのが、非常に意味がある組織だと思いますので、名称はともかくとして、何らかの形で継承して続けていって頂きたいというように思います。

それが玉野市の大きな発展につながっていくと思います。

ということで、予定しておりました時間が これで来ましたので、これで終わりたいと思います。

冒頭申しましたように、フロアからの質問というのは ないかもしれないということ言いましたので、ない、ということにしたいと思います。各位、質問がありましたらパネリストの皆さん方に直接して頂きたいと思います。

どうも長い間ご清聴ありがとうございました。

## ○ 司 会

パネリストの皆様、どうも長時間に渡り ありがとうございました。お疲れさまでした。

ここでいま一度コーディネーター、並びに、パネリストの方々に盛大な拍手をお願いいたします。

本日は大勢の市民の皆様にご参加頂き、また、パネリストの皆様から貴重なご意見や、心強いご支援を頂き 大変実りの多いシンポジウムとなりました。心から御礼申し上げます。

ここで職人塾実行委員会の宮原副委員長から閉会のご挨拶を申し上げます。

# 閉会挨拶

## ○宮原一也 副委員長

時間が押してる中で最後に締めくくりをさせていただきます。

職人塾の副実行委員長の宮原です。

本日は、長時間に渡りご多忙の中「シンポジウム」にご参加頂きまして、どうもありがとうございました。今年度も有意義な会を持つことができ、大変うれしく思っております。ご協力を頂きました皆様方へ心より感謝申し上げます。

既に、お聞き頂いたように、「職人塾」も3年目を迎へ、冒頭、活動についてはご報告いたしましたように、各分科会において、それぞれ工夫を凝らした充実した中身のある、濃いプログラムで今取り組みをすることができるころまで来たというふうに自負を致しております。これからも時間は掛かると思いますが、段々、よい結果が生まれてくるのではないかなというふうに我々関係者一同も期待をしている処でございます。

ただ、ご承知のとおり、この取り組みというのは すぐ結果に結びつくものではありませんし、逆にパネラーの方々のお話の中にも出ておりましたように、若者の“ものづくり”に対する関心度とか、意識、あるいは、我々中小企業が抱える人材確保や育成辺りの課題というのは、益々難しい方向に、あるいは、難しい状況に進んでいっているのではないかな というふうに思われます。



そういう中で、この「職人塾」を如何舵を取っていくかということでした。

少し話はずれますが、暑い夏休みにポケットとして過ごしておりますと、“オリンピック”が開かれていまして、新聞にも書かれていましたから、皆さんお読みになったんじゃないかなと思いますけど、金メダルを取ったりして、成績のよい成果を上げている国は、スポーツを“国家事業”として捉えていろんな取り組み、育成に励んでいるということのようです。けれども、日本は、どのスポーツにおいても協会とか、スポーツクラブのような単位でしか育成がなされていないようです。そういう状況の中で、結果だけを我々国民が求めるというのは いかげなものかというような話を載せておられました。

そんな記事を読みながら、さあ、「職人塾は、どんな姿が良いのか」と要らぬことを考えたんですけども。職人塾の方も事務局を始め、いろんな知恵を絞りながら 取り組みをやっておりますし、地域でも、こうした地味な活動の積み重ねをしていくことが本当に大切なんだということを思いながらも、この課題というのは、これは皆様方、重々ご承知のように、今の日本全体が持つ大きな課題であると思うんですよ。これは皆さんご理解頂いていることじゃないかなと思いますけれども。

そんな中で、職人塾がいかなる方向へ行くのか、先程から「三井職人塾」というような話も出ておりましたが、幸いに、当地区、玉野地域は、基幹産業の造船、三井という一つのくくりというものがあるわけで、やはり、ここがポイントになってくるんじゃないかなというふうに私は思っております。そういった辺りのことを、今、本委員会の面々が、頭を悩ませておるのが昨今の状況でございます。

ちょっと、長くなって申しわけないんですけども、今、日本で老後を過ごすのは、ご承知のように豊田市、（今まで云われた高級住宅地ではなくて）豊田市が一番だというふうなことを言われているのはご承知の通りだと思います。日本のものづくりは、トヨタ方式というんですか、それが引っ張っていているようなところがあるわけですけども。

ある方が、玉野市を三井市にされたら如何ですかということをおっしゃった人もおられます。確かに以前、ご承知のように三井、三井と言われた時代がありましたですね。

ちょうど、私の年代の同級生の女性は、まず、高校へ行って、市内の会社へ勤めて、三井マンと結婚するのが最大の幸せだといわれた時代があったんです。それで、三井造船の人と結婚出来たといったら、もう周りの人がそれは良かったなという時代でありました。それを是非、今の若い人達も、もう一度味わわせてあげて頂けたらなというふうなことを考えたりしております。

三井の生産システムが日本をリードして、もう一度、三井マンと結婚するのが最大の幸せだというような状況になれば、日本全体が三井、三井、って言い出すでしょうし、玉野、玉野、というふうに言い出すんじゃないかなというふうに思います。そうなれば、人は勝手に集まってくるでしょうし、技術の承継なんかというのはそう難しく考えなくても、ずっと行ってしまおうでしょうし、そうなれば我々協力企業の者も幸せになっていけるんじゃないかなというふうな夢をこの暑い夏、考えておったところでありました。

この様な状況になれば、黒田市長も 一地方ではなく 全国版になっていくんじゃないでしょうか。

時間が長引いてますので、こちら辺で夢から覚めないといけないのではないのでしょうか。

**“小さな取り組みの積み重ねが大切である”**ということをしつかりと頭に置きまして、今日のパネラーの先生方始め、皆様方から頂きましたご指導を糧に、次への取り組みとして、やって参りたいというふうに考えております。

引き続き「職人塾」に対しまして、温かいご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。閉会の挨拶と致します。

本日はどうもありがとうございました。

## ○ 司 会

以上をもちまして「技術のまちの活性化シンポジウム」、「明日のものづくりに若者が何を求めているか」を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。





# 技術のまち活性化シンポジウム

## アンケート報告

開催日時：平成20年8月19日(水) 13:00 ~ 17:20

場所：産業振興ビル 3階 会議室

基調講演：演題 『中国の船用界事情』

上海中船三井造船柴油机有限公司 董事・総経理 水原 修平 氏

パネルディスカッション：テーマ 『あすのものづくりに若者が何を求めているか』

岡山商科大学	教授	岡本 輝代志 氏
玉野市長		黒田 晋 氏
中国運輸局岡山運輸支局	次長	勢井 利博 氏
玉野公共職業安定所	所長	原 直美 氏
三井造船(株)玉野事業所	総務部長	仲田 正幸 氏
玉野商業高等学校	校長	内田 太 氏
職人塾実行委員長		三宅 照正 氏

主催：職人塾実行委員会、財団法人 玉野産業振興公社

共催：中国運輸局岡山運輸支局、玉野市

アンケート回答数：84件



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

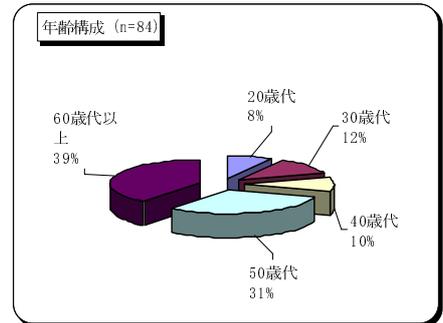


# 『技術のまち活性化シンポジウム』アンケート

平成20年8月19日に開催した標記シンポジウムについてアンケート結果の集計及び分析する。

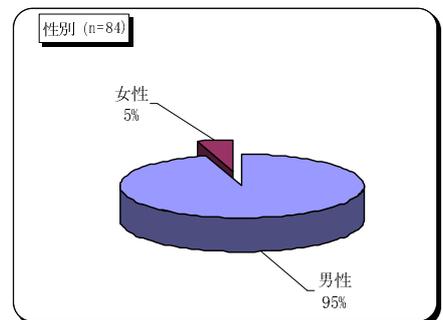
## 1. 参加者年齢構成

各年齢層より参加戴いたが、特筆すべき点として、『50歳代』及び『60歳代以上』が併せて70%を占める。これは後述の通り、参加者の職種において『製造業のの経営者・管理者』の参加が比較的多かった事が起因するものと考えられる。



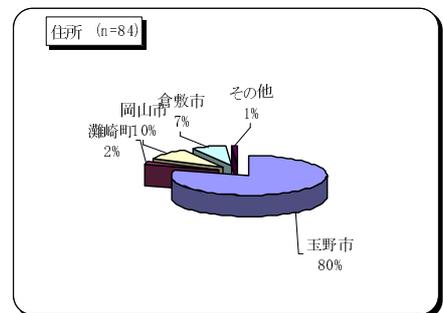
## 2. 参加者性別

参加者の殆どが男性であった。  
昨年度は、女性の参加は全体の2%であったが、今回は5%である事から女性の参加は若干ながら増加傾向にある。



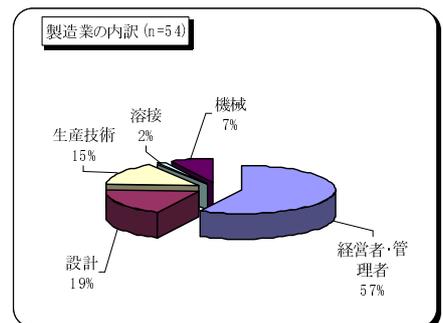
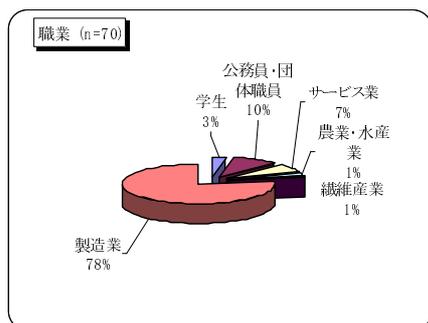
## 3. 参加者住所

参加者の8割が玉野市在住であった。  
参加者住所分布データは昨年度のデータと殆ど同じであった。



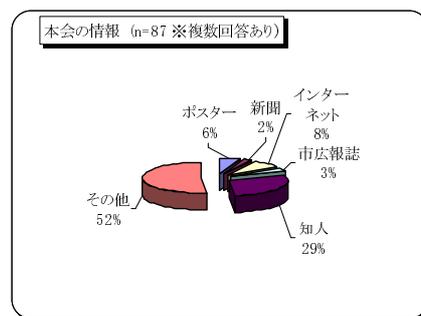
## 4. 参加者職業

参加者の職業は約8割が『製造業』であった。本会のテーマ『あすのものづくりに若者が何を求めているか』と関連し、製造業の方々の関心は高いものと考えられる。  
また製造業の参加者の半数強は『経営者・管理者』であり、今後の『技能伝承』のあり方について強い関心があるものと察する。



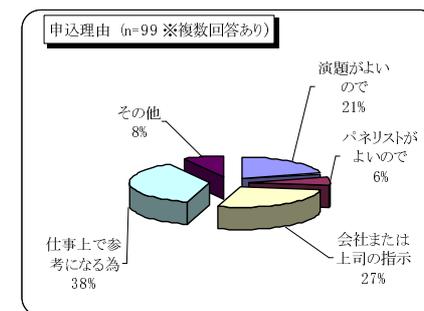
## 5. シンポジウムの情報入手について

本会の情報入手については『知人から』が一番多く、約3割を占める。また後述の申込理由のとおり、勤務先での情報(会社・上司からの指示等)が多かったものと考えられる。



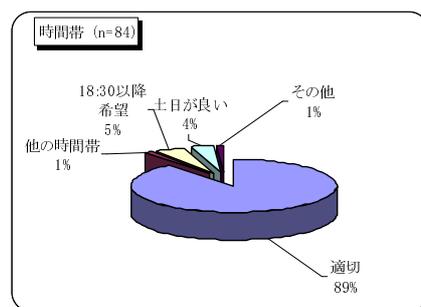
## 6. シンポジウムの申込理由について

申込理由については、『会社または上司の指示』と『仕事上で参考になる為』が合わせて65%に及ぶ。よって勤務先・勤務内容がシンポジウム参加に大きく起因するものと考えられる。



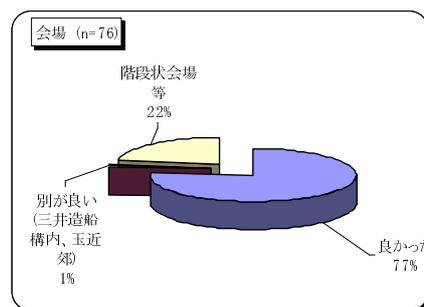
## 7. シンポジウム開催の時間帯について

本会の開催時間帯については約9割が『適切』との回答であった。よって開催時間帯は概ね妥当であったものと考えられる。



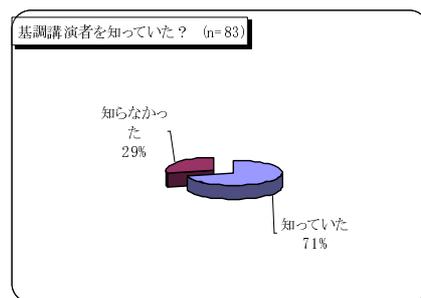
## 8. シンポジウムの開催場所について

本会の開催場所については、8割弱が『良かった』と回答している。よって、会場選定については概ね妥当であったと考えられる。



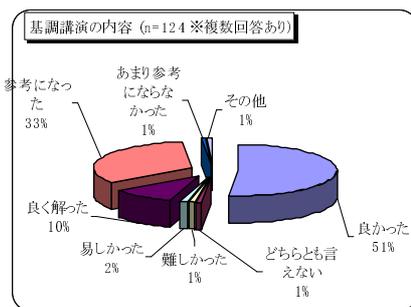
## 9. 基調講演者(水原修平氏)について

参加者の7割強が基調講演者(水原修平氏)をご存知であり参加者間での知名度は高かったものと察する。



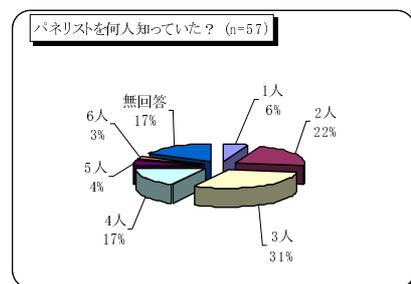
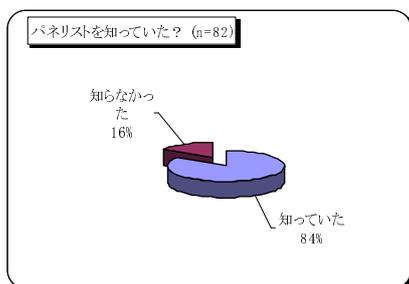
## 10. 基調講演内容について

基調講演については『良かった』、『良く解った』、『参考になった』の回答総数が94%であった。  
また、後述の自由意見にて好評であった旨の感想が寄せられている。



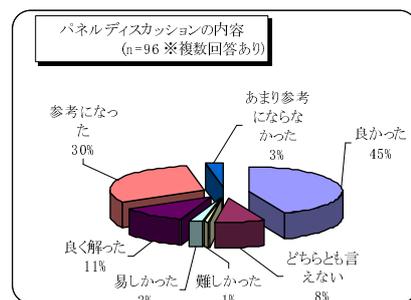
## 11. パネリストについて

回答の84%がパネリストを知っていたと回答している。  
『何人知っていたか?』の問いに対し、『3人』が一番多く、その後『2人』、『4人』、『1人』の順であった。  
パネリストについては、玉野市内において比較的知名度が高い方々に参加戴けたものと察する。



## 12. パネルディスカッションの内容について

パネルディスカッションについては『良かった』、『良く解った』、『参考になった』の回答総数が86%であった。  
よってパネルディスカッションの内容については概ね好評であったと考えられる。

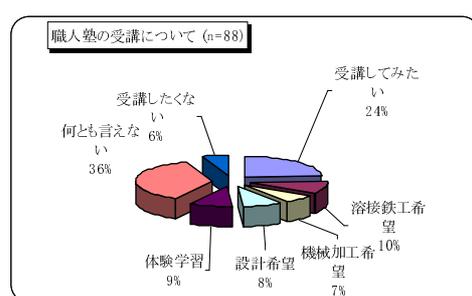
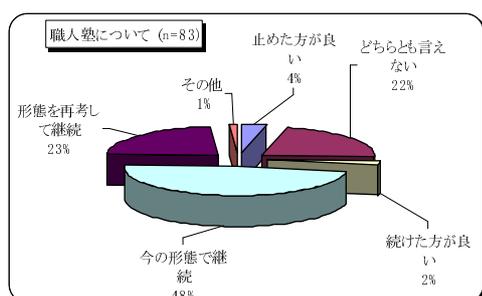


## 13. 今後の職人塾について

職人塾については7割強が何らかの形で継続する事を希望している。  
しかし、今後、運営形態を再考する必要性もあると考えられる。

## 14. 職人塾受講要望について

職人塾の受講要望については、58%が何らかの受講要望の回答があった。  
しかし、回答の4割強が『何とも言えない』、『受講したくない』と回答している為、今後、研修内容や運営形態等について魅力ある内容の必要であると考えられる。



## 15. 自由意見

- とでもためになる内容でした。今後とも継続され地域活性化の一環になれば期待しています。事務局も大変でしょうが長いスパンで考えれば大変有意義な活動であると確信しています。頑張ってください。大分県では学生対象とした溶接コンクールを実施し、大成功を取めているとの由、一考しては？ (50歳代 製造業経営者 男性)
- 玉野市がこれから発展継続していくためには、全日制の工業高校はどうしても必要だと思います。それが出来ないとすると玉野市は倒産します。(40歳代 製造業経営者 男性)
- 技術&技能の伝承について強い関心があります。積極的にアピールしていく必要があると思います。今後も参加したい。(60歳代以上 製造業経営者 男性)
- メリハリ(公私)のある市をアピールして欲しい。(20歳代 製造業 男性)
- 職人塾経過報告はもっと簡単にして欲しい。水原総経理の話は良かった。分かりやすく具体性がある上ジョークも入り話に山谷があり感心しました。(50歳代 製造業経営者 男性)
- パネリストに中小企業の方も参加され、中小企業としての意見も参考としたい。また、若者(高校生)の生の意見・考えも参考としたい。(40歳代 サービス業 男性)
- 職人塾の若返りを計るには官民が協力して財政・人脈等を充実して組織化を実践して製造業に就職する人口を増やすように企画・運営が必要と思います。(50歳代 製造業経営者 男性)
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。(50歳代 サービス業 男性)
- 玉野から始まった職人塾を岡山県全体にアピールしてもらいたい、そうすれば、玉野を知ってもらえるし玉野市も活性化する。企業と企業が連携していけば、職人塾もより良い物になっていくと感じた。(20歳代 公務員 男性)
- 職人塾を継続、発展させていくような建設的な議論とならなかったのが残念。(50歳代 経営者 男性)
- 活性化の為の職人塾は若年者にとどまらず、高齢者の再認識。新たな仕事を養成できる形にできないか？玉野ブランドのPRをする組織としても良いのではないか。(50歳代 設計 男性)
- 備南高校のレベルアップ、早く工業高校に。(60歳代以上 設計 男性)
- 塾の独立を考える上での参考に思うこと。1、総合看護学校との連携？2、資格を取らすことに結びつける。(60歳代以上 男性)
- パネルディスカッションの内容がテーマから離れ、内容がぼけてしまっている気がする。(30歳代 男性)
- 造船の街に工業高校がないのはおかしい、若者の流失の原因になっているのでは？是非、設立を望む。(40歳代 生産技術 男性)
- 講演にて質問の時間が欲しかった、次回は基調講演を踏まえて、それに関連するディスカッションして頂きたい。(30歳代 製造業 男性)
- 他地域から参加したくなるメニュー(複合技術が求められている)。既存技術の育成、習得プログラムにプラスして技術の幅を持たせるため、先行技術のプログラムも付加したらさらに効果あり。※裏面に具体的な記述あり。(60歳代以上 公務員 男性)
- 技術、技術の伝承は必要不可欠あり、その技術を次の世代に伝えなければ行けない者が中心となって続けることが大切だ。ボクシングで言えばボディーブローの様な気がします。地道な活動がいるのかな？(60歳代以上 男性)
- 玉野市には、工業高校がない為物づくりに対する興味があまりないかと思う。自分は工業高校出身なので、実習をやり、工場で働くのが当たり前と思っていた。玉野にも工業高校をつくった方が良い。(30歳代 男性)
- 基調講演に関しては、中国に関する事や日本との違いについて解りやすかった。パネルディスカッションでは若者が求める事、企業が若者に求めることのギャップも非常に参考になりました。備南高校で職人塾になるような事をする意見は良いと思う。(20歳代 溶接 男性)
- 今後職人塾を継続していく上で「もの作り玉野」職人塾のような名前を付けた方が良いと思う。(50歳代 経営者 男性)





## 玉野職人塾 実行委員会

協賛：中国運輸局 岡山運輸支局 玉野公共職業安定所 玉野市役所 玉原鉄工業共同組  
三井造船玉野協力会 玉野鉄工協議会 マリノバージョン玉野 他